

平成23年度
一般社団法人地球温暖化防止全国ネット

事業報告

平成24年6月

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット

平成23年度一般社団法人地球温暖化防止全国ネット事業報告

1. 基本方針

(1) 基本的考え方

平成17年2月に発効した京都議定書の第一約束期間を迎え、国、地方公共団体、事業者及び国民が一体となった地球温暖化防止活動への取組みが一層求められているところであり、平成22年8月の当法人創設から2年目となる平成23年度は、地域において地球温暖化防止活動を実施する団体の自治組織として、参画する団体の活動をより効果的なものとするための技術的支援等の実施など、中間支援機能の役割を一層果たしていくことにより、低炭素社会実現のため民生分野の地球温暖化対策の推進を図ることとした。

(2) 運営方針

法人の運営にあたっては、会員との連携を念頭におきつつ、得られた成果を常にフィードバックしていくことを前提に、多様な財源の確保に努めるとともに、管理経費の削減を進め、事業範囲を広げることを可能にし、柔軟な人事配置及び多様な人材の活用を図りつつ、管理部門における機能の充実強化と各事業の効率的な執行を盛り込んだ的確な収支計画を作成し、これに基づく健全な財政運営に努めた。

(3) 地域センター活動等課題解決のための取り組みの推進

家庭部門における排出量の伸びが続いている現在の状況において、必要不可欠な地域の取り組みにおいて一定の成果がみられるなかで、低炭素社会構築に向けた温暖化対策をとりまく状況、普及・啓発等地域の取り組みのあり方が変わり、様々な課題も生じている。

とりわけ、3.11 東日本大震災以降の状況も見据え、節電、節エネ、節CO₂の視点から節電共同行動を立ち上げ、また社会に向けたアピールを発表するなど地域センターによる地域連携のひろがり、他のセクターとの連携などそれぞれの取り組みの水平展開を図る基盤形成をより強固にするための取り組みを進めてきた。

当法人では引き続き長期的視野にたつてかかる課題の抽出、整理、解決に向けた検証を会員はもちろん自治体、企業などステークホルダーとともに評価と改善に取り組み、併せて、関係機関等への要望活動を必要に応じ実施した。

2. 法人の運営管理

(1) 役員一覧

区 分	氏 名
理事長（代表理事）	長谷川 公一
専務理事	菊井 順一
理 事	秋元 智子
監 事	葉山 幸雄

(2) 運営委員一覧（◎委員長 ○副委員長）

- 西岡 秀三 国立環境研究所 特別客員研究員
 大久保規子 大阪大学大学院法学研究科 教授
 関 正雄 株式会社損害保険ジャパン株式会社 理事CSR統括部長
 早川 光俊 NPO 法人地球環境と大気汚染を考える全国市民会議 専務理事
 ○服部乃利子 静岡県センター事務局長（NPO法人アースライフネットワーク）
 南 孝 石川県センター事務局長（社団法人いしかわ環境パートナーシップ
 県民会議）
 木原 浩貴 京都府センター事務局長（NPO法人京都地球温暖化防止府民会議）
 中平 徹也 岡山県センター事務局長（財団法人岡山県環境保全事業団）
 石田 達也 宮崎県センターセンター長（NPO法人宮崎文化本舗）
 ◎久保田 学 北海道センターセンター次長（財団法人北海道環境財団）
 阿部 泰之 東京都センターセンター長（財団法人東京都環境整備公社）

(3) 事務局職員等一覧

区 分	平成24年3月末時点	平成23年3月末時点
正規職員数（役員兼務を含む）	4	2
出向受入職員数	1	1
嘱託職員数	3	3
常用雇用契約職員数	2	2
派遣職員数	2	0
計	12	8

区分	期間	研究テーマ
客員研究員	平成24年3月1日～平成25年2月28日	「うちエコ診断検証事業」の実施による省エネルギー効果の要因分析

(4) 社員総会の開催

① 第2回社員総会（平成23年度定時社員総会）の開催

日時：平成23年6月19日（日） 13時～

場所：東京都千代田区神田多町2-4 第2滝ビル

情報オアシス神田セミナーハウス3階

議事：1) 平成22年度(後期)事業報告（案）及び収支決算（案）の承認に関する件

2) 役員を選任について

3) その他：緊急アピール“節電・節エネ・節CO2の国民運動”の提案について

② 第3回社員総会（平成23年度臨時社員総会）の開催

日時：平成24年3月14日（火） 13時30分～

場所：東京都千代田区神田多町2-4 第2滝ビル

情報オアシス神田 オアシス4（神田北スペース）

議事：1) 平成24年度正会員、準会員、賛助会員の会費を定める件

2) 平成24年度事業計画（案）の承認に関する件

3) 平成24年度収支予算（案）の承認に関する件

(5) 理事会の開催

① 第8回理事会

日時：平成23年4月27日（水） 14時～

場所：東京都千代田区神田駿河台3-2-11 総評会館 403号室

議事：報告

1) 東日本大震災に対する全国ネットの対応、活動について

2) 低炭素杯2012について

3) 英国視察について

4) 融資の返済について

5) 平成23年度環境省委託事業について

6) 運営委員会の開催について

7) 今後日程について

議案

1) 会員の入会の承認について

2) 融資申し込みの承認について

3) 運営委員の辞任、選任について

4) 社員総会の開催について

・平成22年度事業報告、収支決算

・役員の再任について

② 第9回理事会

日時：平成23年6月10日（金） 15時～

場所：東京都千代田区神田駿河台3-2-11 総評会館 403号室

議事：報告

- 1) 全国ネットの節電対応、活動について
- 2) 低炭素杯2012について
- 3) 英国視察報告会について
- 4) 融資について
- 5) 平成23年度環境省委託事業について
- 6) 運営委員会の開催について
- 7) ブロック会議の開催について

議案

- 1) 平成23年度事業計画の変更及び収支予算の補正について（定款第46条第1項）
- 2) 第2回社員総会（平成23年度定時社員総会）の議案書について
- 3) 平成22年度事業報告、収支決算、監事監査報告について
- 4) 役員を選任について
- 5) 緊急アピール“節電・節エネ・節CO2の国民運動を”について

③ 第10回理事会

日時：平成23年6月19日（日） 14時～

場所：東京都千代田区神田多町2-4 第2滝ビル 情報オアシス神田セミナーハウス

議事：議案

- 1) 理事長、専務理事を互選する件

④ 第11回理事会

日時：平成23年9月29日（水） 14時～

場所：羽田空港第1旅客ターミナル6F オリオン

議事：報告

- 1) 事務局体制について
- 2) 平成23年度事業実施状況(中間報告)について
- 3) 全国センター・地域センター関係の環境省平成24年度予算要求について
- 4) 低炭素杯2012について
- 5) 第4回運営委員会の開催について

議案

- 1) 準会員の入会を承認する件
- 2) 組織規程の一部を改正する件
- 3) 重要な職員の承認を求める件
- 4) 融資の承認を求める件

⑤ 第12回理事会

日時：平成23年12月12日（月）11時～

場所：東京都港区赤坂1-9-13（財）農林水産奨励会 9F第1会議室

議事：報告

- 1) 法人資金運用について
- 2) 平成24年度環境省関連予算について
- 3) 低炭素杯2012について
- 4) 平成23年度ブロック会議の開催について

議案

- 1) 会員の入会承認について
 - 2) 融資の承認について
- 協議事項
- 1) 理事・監事の選任について
 - 2) 運営委員会委員の選任について

⑥ 書面評決理事会

議決のあった日：平成24年1月20日

議事：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット客員研究員取扱規則の制定

⑦ 第13回理事会

日時：平成24年2月29日（水）13時～

場所：東京都千代田区神田多町2-4 第2滝ビル 情報オアシス オアシス2

議事：報告・協議事項

- 1) 低炭素杯2012開催結果について
- 2) 低炭素杯2012協賛・寄付について
- 3) 客員研究員の委嘱について
- 4) 理事・監事の選任について
- 5) 平成24年度事務局体制について

議案

- 1) 賛助会員の入会承認について
- 2) 平成23年度事業計画の変更及び平成23年度収支予算の補正について
- 3) 第3回社員総会（平成23年度臨時社員総会）の開催について
- 4) 平成24年度事業計画（案）及び平成24年度収支予算（案）について
- 5) 次期運営委員会委員の選任について

(6) 運営委員会の開催

① 第3回運営委員会

日時：平成23年5月27日（金）10時～

場所：東京都江東区有明3-11-1 東京ビッグサイト会議室棟 7階702
会議室

議題：

- 1) 平成23年度事業について
- 2) 低炭素杯2012について
- 3) 平成24年度地域センター関係事業について
- 4) その他

② 第4回運営委員会

日時：平成23年10月7日（金） 13時～

場所：東京都千代田区神田多町2-4 第2滝ビル

情報オアシス神田 神田北スペース3階 オアシス7

議題：

- 1) 平成23年度事業について
- 2) 低炭素杯2012について
- 3) 平成24年度事業について（ヒアリングを含む）
- 4) その他

⑤ 第5回運営委員会

日時：平成24年2月24日（金） 10時～12時

場所：東京都千代田区神田多町2-4 第2滝ビル

情報オアシス神田 オアシス1（神田北スペース）

議題：

- 1) 平成23年度主な事業の成果について
- 2) 低炭素杯2012の開催結果について
- 3) 平成24年度事業計画（案）について
- 4) 平成24年度事業予算（案）について
- 5) 理事会の構成（案）について
- 6) 次期運営委員会委員（案）について
- 7) その他

3. 東日本大震災後の当法人の主な取り組み

当法人、地域温暖化防止活動推進センターは、これまで、温暖化の原因になる CO2 を排出しない「低炭素社会」づくりのため、家庭分野での省エネ対策の普及啓発に取り組んできた。その経験を生かし、次表にあるとおり、震災直後から、効果的な方法で節電を促す共同行動などに取り組んだ。

表 温暖化防止活動推進センターの節電の取り組み

年月日	主な取り組み
平成23年3月11日	東日本大震災の発生
平成23年3月14日	「節電21」をとりまとめ、HPにアップ
平成23年4月12日	夏期の節電に向け家庭でのエアコンの対策に特化して、今の時期から取り組む「節電7～準備編～」をHPにアップ
平成23年4月14日	東電管内11の地域センターによる節電共同行動の会議が開催され、節電共同行動委員会の立ち上げと節電共同行動に関するアピール文を採択
平成23年4月28日	「家庭ですぐ出来る節電21」の夏バージョンを新たに作成し、公開
平成23年5月12日	東電管内地域地球温暖化防止活動推進センター節電共同行動委員会の第2回を開催
平成23年5月13日	家庭の節電マニュアル「どうする？どうやる？節電せいかつ」を発表・公開
平成23年5月16日	中部電力管内7地域の地球温暖化防止活動推進センターが共同して、それぞれのホームページを通じ、「共同の節電のお願い」を呼びかけ
平成23年5月20日	東電管内地域センターそれぞれの節電の取り組みをとりまとめ、HPにアップ
平成23年6月15日	節電をテーマとした地域活動支援ツールを整備し、地域センターの事業への活用を呼びかけ
平成23年6月27日	当全国ネットとして“節電・節エネ・節CO2の国民運動を！”アピールを発表
平成23年7月 1日	近畿ブロックで「関西地域地球温暖化防止活動推進センターによる共同呼びかけ：節電のアピールとお願い」をとりまとめ発表
平成23年7月 8日	“節電マニュアル(邦題:どうする？どうやる？節電せいかつ)”の英語版を作成、公表
平成23年9月 1日	「家庭ですぐできる冬の取り組み21」をHPにアップ
平成23年9月15日	東電管内地域地球温暖化防止活動推進センター節電共同行動委員会の第4回を開催し、冬の節電に向けた対応を協議

4. 全国地球温暖化防止活動推進センター事業の推進

平成 22 年 10 月 1 日付けで温暖化対策推進法第 25 条に基づく全国地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けたことを踏まえ、その責務と役割を果たすため、次の事業を円滑かつ的確に進めている。

(1) 地域センターに係る情報交流並びに情報の整理及びデータベース等の作成

① 地域センター等第 1 回ブロック会議の運営・管理

1) 日時、場所

ブロック	月日	時間	会場	住所
北海道・東北ブロック	6月8日(水)	13時30分～ 16時30分	EPO東北ミーティングルーム	仙台市青葉区本町2-5-1 オークビル5階
関東ブロック	6月3日(金)	13時30分～ 16時30分	安田コミュニティープラザ B会議室	東京都千代田区神田錦町2-9 コンフォール安田ビル地下1階
中部ブロック	6月9日(木)	13時30分～ 16時30分	中部地方環境事務所 会議室	名古屋市中区三の丸2-5-2
近畿ブロック	6月9日(木)	13時30分～ 16時30分	環境省近畿地方環境事務所 会議室	大阪市中央区大手前1-7-31 大阪マーチャンダイズマート (OMM)ビル8階
中国・四国ブロック	6月8日(水)	13時30分～ 16時30分	環境省中国四国環境事務所 4階会議室	岡山市北区桑田町18-28 明治安田生命岡山桑田町ビル4階
九州・沖縄ブロック	6月1日(水)	13時30分～ 16時30分	博多バスターミナル9階 第2ホール	福岡市博多区博多駅中央街2-1

2) 議事

- ・全国ネットの震災後の対応
- ・地域活動支援・連携促進事業について
- ・家庭エコ診断基盤整備事業について
- ・節電共同行動について
- ・平成 24 年度地域センター事業について
- ・低炭素杯 2012 について
- ・その他

② 地域センター等第2回ブロック会議の運営・管理

1) 日時、場所

ブロック	月日	時間	平成23年度第2回ブロック会議開催会場	
			会場	所在地
近畿ブロック	1月11日(水)	13時30分～ 16時30分	近畿地方環境事務所 会議室	大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル8F
中部ブロック	1月12日(木)	13時～ 16時	貸会議室 名古屋第一会議室	名古屋市中村区則武1-2-1 カネジュービル3階
中国・四国ブロック	1月13日(金)	13時～ 16時	中国四国地方環境事務所 4階会議室	岡山市北区桑田町18-28 明治安田生命岡山桑田町ビル
関東ブロック	1月16日(月)	13時～ 16時	ホテルプリランテ武蔵野	埼玉県さいたま市中央区 新都心2-2
北海道・東北ブロック	1月17日(火)	13時～ 16時	東北地方環境事務所 会議室	仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎6F
九州・沖縄ブロック	1月23日(月)	13時30分～ 16時30分	天神ビル 6号会議室	福岡市中央区天神2-12-1 天神ビル11階

2) 議事

- ・24年度予算について
- ・23年度地域活動支援・連携促進事業について
- ・23年度 家庭エコ診断基盤整備事業について
- ・低炭素杯2012について
- ・その他

③ 地域センター便覧の作成と配布

全国センター及び地域センター間の情報共有等に資するため、「平成23年度地球温暖化防止活動推進センター便覧」を作成し、環境省及び各地域センターに配布した。

発行：平成23年7月

部数：200部

配布先：地域センター、環境省、地方環境事務所、指定を行っている都道府県市
他

④ 全国会議の開催

全国センター及び地域センターと地域のコンソーシアム構成NPOメンバーが、一同に会する全国会議として、テーマ別に意見交換するワークショップと有識者によるシンポジウムを開催した。会議での発表資料の内容を、関係者間の情報共有等に資するため、配布資料を作成して当日の参加者に配布した。

(全国会議)

日時：平成24年2月19日 10時～15時

テーマ：ワークショップ

第一ワークショップ：節電・節エネ行動

第二ワークショップ：エコモビリティ（交通）など地域的取組による活動

第三ワークショップ：バイオマスエネルギーなどエネルギー利用にかかわるイノベーション

特別シンポジウム

ひと・まち・暮らし.. 低炭素地域づくり

会場：東京ビッグサイト会議棟 国際会議室、会議室 605,606,607

参加者：(ワークショップ)約 180 名、(シンポジウム)約 600 名

(配布資料)

部数：250 部

配布先：当日参加者（地域センター、コンソーシアム構成 NPO、環境省、地方環境事務所他）

⑤ 各地域センターに対する支援

1) 秋田市による秋田市センター指定に向け、秋田市と協議

5月17日(火) 秋田市環境部（秋田県秋田市）

2) 青森市による青森市センター指定を受け、青森市センター、青森市と協議

7月14日(木) 青森市センター(青森県青森市)

(2) 地域で活動する NPO 支援・連携促進事業に係る統括的サポート

本事業の統括的サポート機関として位置付けられた全国地球温暖化防止活動推進センターの地域センター支援の取り組みを進めた。

① コンソーシアム事業の整理

平成23年度地域活動支援・連携促進事業(コンソーシアム事業)一覧

ブロック	幹事団体	コンソーシアム名	テーマ(主な方法)
北海道・東北	北海道	どさんこ薪ネット	未利用木材利用(薪)
	青森県	LEDで地球にやさしい城下町づくりコンソーシアム	LED(モデル地区の防犯灯をLEDへ交換)
	岩手県	いわてBDF利用拡大コンソーシアム	BDF(廃油回収-製造-消費)
	宮城県	みやぎ節電コンソーシアム	節電(緑のカーテン、断熱シート)
	秋田県	あきた節電コンソーシアム	節電(美容院・モデル地区;見える化による節電、バー;LEDへの交換)
	山形県	①山形県ペレットエコポイント事業コンソーシアム ②やまがたエコ住宅・エコリフォームコンソーシアム	①間伐材利用(ペレット、エコポイント) ②エコ住宅・エコリフォーム(モデル家庭)
	福島県	緑のカーテン節電効果実証プロジェクトinふくしま2011	緑のカーテン(仮設住宅)
	秋田市	窓断熱シート・節水シャワーヘッド等の活用による民生家庭・業務部門の温暖化対策促進事業	節電(モデル家庭;節水シャワーヘッド、ライフスタイル見直し)
	茨城県	茨城県・東海村節電モデル地区プロジェクト	節電(モデル地区;LED、エコタップ、よしず)
	関東	栃木県	Power saving とちぎコンソーシアム
群馬県		「チャレンジぐんま」ライフスタイルの見直しから始まる節電コンソーシアム	節電(ライフスタイルの見直し、バイオマス燃料活用も含む)
埼玉県		夏の節電行動・2011コンソーシアム事業	節電(①コンクール、②クールスポット100選)
千葉県		ちば植物油燃料利用促進コンソーシアム	BDF(廃油回収-製造-販売)
東京都		緊急節電チャレンジinとうきょう事業コンソーシアム	節電(モデル地区)
神奈川県		かながわ節電モデルプロジェクト・事業コンソーシアム	節電(モデル地区)
川崎市		かわさき緊急節電コンソーシアム	節電(モデル地区)
新潟県		グリーンカーテンプロジェクト2011インにいがた	緑のカーテン(公共施設・一般家庭)
山梨県		甲斐の国・風林火山コンソーシアム	自然エネルギー(①薪ストーブ、②太陽光)
静岡県		しずおか e-Bike Project コンソーシアム	エコモビリティ(電動アシスト自転車、ノーカーデー、相乗り、エコドライブ)
中部	富山県	宇奈月温泉街エコ化コンソーシアム	宇奈月温泉街エコ化(①小水力発電、②電気自動車)
	石川県	いしかわエコ活動事業コンソーシアム	生ごみ循環(モデル地区における ①生ゴミの堆肥化、②緑のカーテン)
	福井県	①グリーンカーテン日本一コンソーシアムふくい ②福井発マキキュートコンソーシアム	①緑のカーテン ②薪利用促進
	長野県	③ダウンアンペア作戦コンソーシアムふくい	③節電(ダウンアンペア)
	長野市	冬の節電 in 諏訪コンソーシアム	節電(モデル家庭で、節電・省エネ対策の実践)
	岐阜県	長野市ペレットストーブ実証試験コンソーシアム	ペレットストーブの利用促進
	岐阜県	岐阜低炭素地域づくりコンソーシアム	節電(公共施設における ①緑のカーテン、②LED照明)
	愛知県	とよた省エネ元気なまちづくりコンソーシアム	省エネ(小規模事業者の省エネ活動促進)
	三重県	三重県みどりのカーテンコンソーシアム	節電(公共施設における ①緑のカーテン、②LED照明)
	近畿	滋賀県	滋賀県電動アシスト自転車推進コンソーシアム
京都府		きょうと風土(フード)コンソーシアム	食資源循環(①フードマイレージCO2削減、②BDF農業利用と循環型農業)
大阪府		バイオマス燃料・省エネ推進コンソーシアム	バイオマス燃料・省エネ推進(①間伐材活用、②省エネ診断、③カーボンオフセット)
兵庫県		エコドライブ活動実践推進による二酸化炭素排出削減事業	エコドライブ
奈良県		高機能自転車活用通勤(業務移動等)によるCO2削減実証事業	マイカー通勤抑制(自転車活用)
和歌山県		わかやまエネルギー自立化推進コンソーシアム	バイオマス(薪ストーブ)
中国・四国	鳥取県	鳥取県電動アシスト自転車推進コンソーシアム	電動アシスト自転車推進
	岡山県	省エネコンソーシアムおかやま	省エネ(①街灯・防犯灯LED化②飲食店省エネ診断③オフィスビルの省エネ)
	広島県	①ひろしまグリーン・コンソーシアム ②ひろしまエネルギーセーブ・コンソーシアム	①省エネ学習 ②緑のカーテン
	山口県	③ひろしまアイドリングストップ・コンソーシアム	③アイドリングストップ
	徳島県	やまぐちエコ事業所支援コンソーシアム	中小企業省エネ診断
	徳島県	①那賀町エコあかりコンソーシアム	LED化(モデル地区)
	香川県	②徳島市商店街ウォームビズ・プラスコンソーシアム	省エネ診断、省エネ活動
	愛媛県	①かがわ地域間伐材によるバイオマスエネルギー促進事業コンソーシアム	①間伐材利用促進
	高知県	②かがわ葉の花エコプロジェクトコンソーシアム	②バイオマスエネルギー利用促進(菜種油・廃食油)
	高知県	えひめ使用済み天ぷら油回収・利活用促進コンソーシアム 高知CO2削減コンソーシアム	使用済み天ぷら油回収・利活用促進 CO2削減(モデル学校・モデル家庭の省エネ)
九州	福岡県	世代を越えたエコライフサポート事業	節電(①コンテスト、②エコ活動)
	佐賀県	①地域通貨伊万里「菜の花ハッチ」運営コンソーシアム	①地域通貨(食資源循環(堆肥、BDF))
	長崎県	②唐津の虹の松原バイオマス活用コンソーシアム	②バイオマス(リターフォールのペレット化)
	熊本県	ながさき省エネコンソーシアム	省エネ(コンテスト)
	大分県	①節電21によるエコファミリー&エコ事業所普及コンソーシアム	①節電(モデル家庭・学校・事業所)
	宮崎県	②ライトダウンinくまもとコンソーシアム	②ライトダウン
	宮崎県	③エコ電カ-講習会コンソーシアム	③電気自動車
	宮崎県	④エコノートコンソーシアム	④エコノート
	鹿児島県	大分県節電プロジェクトコンソーシアム	節電(モデル家庭)
	沖縄県	みやざきマイバッグ運動推進コンソーシアム	マイバッグ運動
沖縄県	屋久島CO2フリー活動事業コンソーシアム	屋久島CO2フリー活動(①環境家計簿コンテスト、②エコドライブコンテスト)	
沖縄県	おきなわ地域課題解決型温室効果ガスを減らそうコンソーシアム	①公共バス利用促進(モデル路線)②太陽光発電(モデル地区)③LED(電照菊栽培)	

② 有識者を交えての効果測定手法検討委員会の組織化と効果測定手法検討の実施

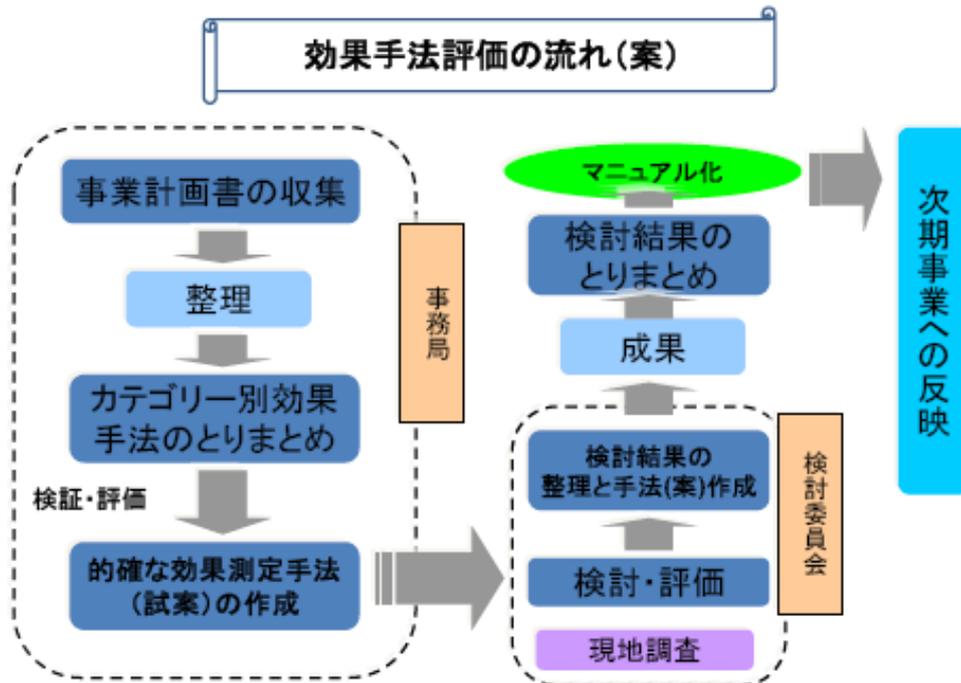
1) 地域活動支援・連携促進事業（CO₂排出抑制対策事業）効果測定手法検討委員会の構成

コンソーシアム事業
効果測定手法検討委員会メンバー

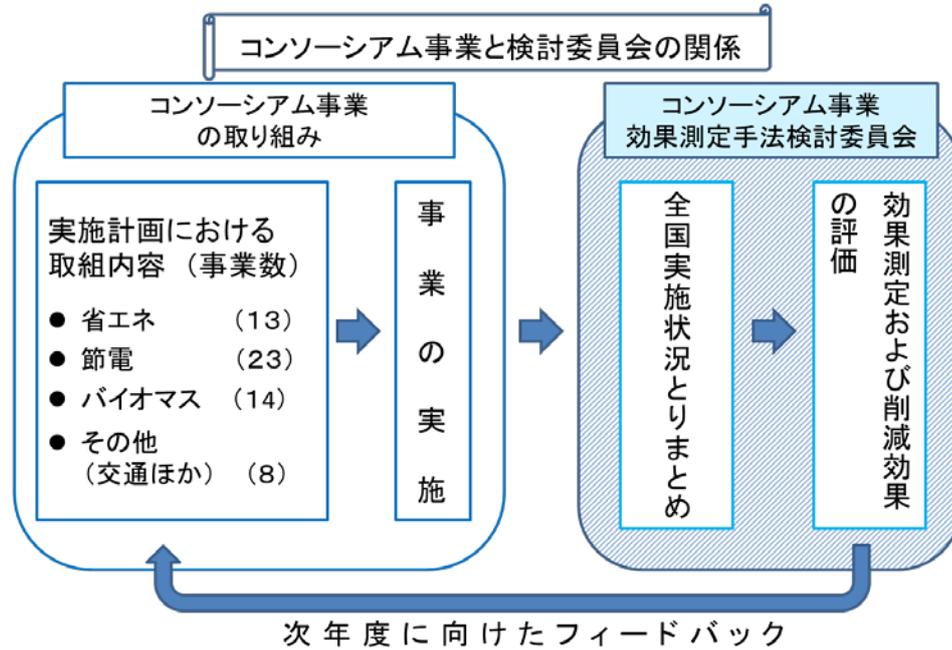
（敬称略）

氏名	所属	役職
松本 安生 （委員長）	神奈川大学 人間科学部	教授
池貝 隆宏 （委員）	神奈川県 環境農政局 新エネルギー・温暖化対策部 地球温暖化対策課	グループリーダー
久保田 泉 （委員）	独立行政法人 国立環境研究所 社会環境システム研究センター 環境経済・政策研究室	主任研究員
平田 悟史 （委員）	独立行政法人 産業技術総合研究所 バイオマス研究センター	副研究センター長

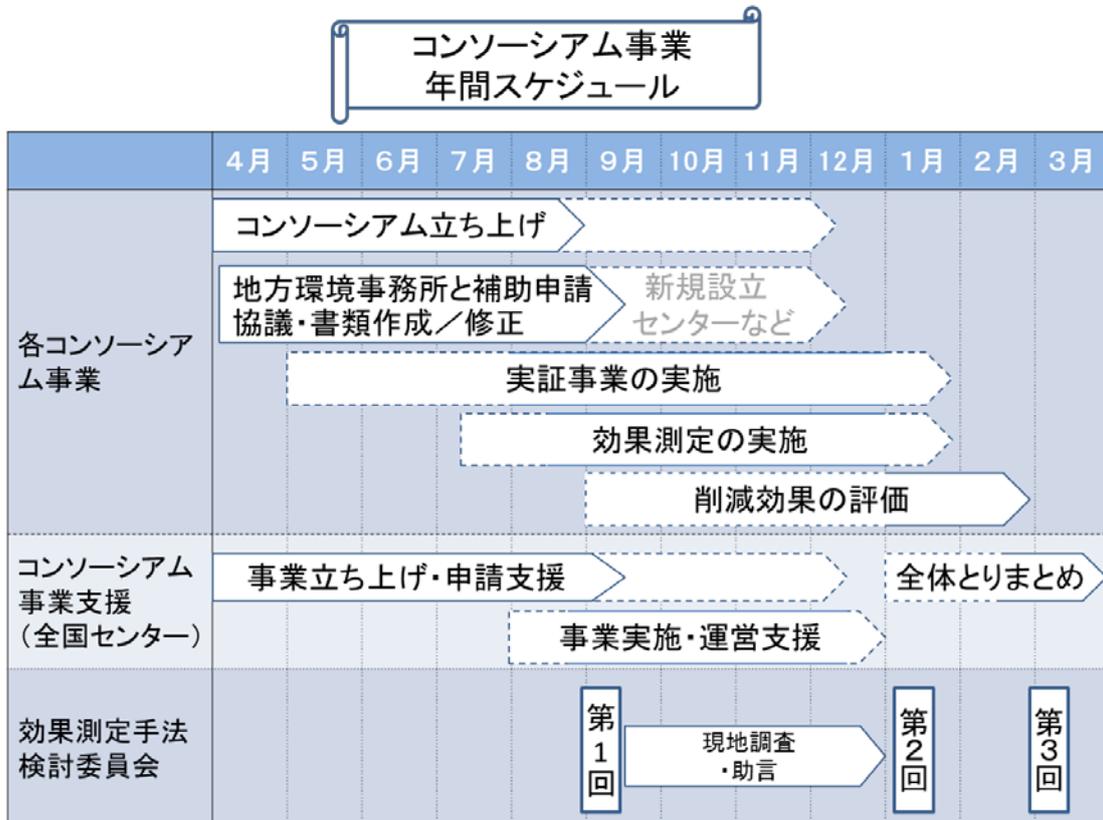
2) 効果測定手法評価のイメージ



地域活動支援・連携促進事業 効果測定手法検討委員会について



3) 効果測定手法評価等の年間スケジュール



③ 検討委員会の開催

(第1回)

日時：平成23年9月6日(火) 13時～15時

場所：情報オアシス神田 オアシス6

(千代田区神田須田町1-2-7 淡路町駅前ビル2F)

議題：

- 1) 地域活動支援・連携促進事業(CO2排出抑制対策事業)効果測定手法検討委員会設置要綱について
- 2) 委員長の選任について
- 3) 地域活動支援・連携促進事業(CO2排出抑制対策事業)とその支援事業の概要について
- 4) 検討委員会における検討事項案について
- 5) 検討委員会の開催スケジュールと進め方について
- 6) その他

(第2回)

日時：平成24年1月19日(木) 13時～15時

場所：情報オアシス神田 オアシス2

(千代田区神田多町2-4 第2滝ビル3F)

議題：

- 1) コンソーシアム事業について
- 2) 現地調査について
- 3) ブロック会議での意見
- 4) 今後の方向性
- 5) 2/19のワークショップの開催と進め方
- 6) その他

(第3回)

日時：平成24年3月27日(火) 13時～15時

場所：情報オアシス神田 オアシス5

(千代田区神田多町2-4 第2滝ビル3F)

議題：

- 1) 事業実施のとりまとめについて
- 2) 全国会議のとりまとめについて
- 3) ガイドラインの改訂について
- 4) その他

④ 専門家の派遣による現地調査と技術的支援

- 1) 福島県センター実施事業の現地調査（緑のカーテンの節電効果実証事業）
8月9日（火） 福島県センター(福島県福島市)
- 2) 山形県センター実施事業の現地調査（ペレットエコポイント事業，住宅のECOハウス簡易診断による地球温暖化対策事業）
10月13日（木） 山形県センター事務所(山形県山形市)
- 3) 新潟県センター実施事業の現地調査（グリーンカーテンプロジェクト in にいがた）
10月25日（火） 新潟県センター事務所(新潟県新潟市)
- 4) 茨城県センター実施事業の現地調査（東海村節電モデル地区プロジェクト）
12月20日（火） 茨城県センター事務所(茨城県水戸市)
- 5) 青森県センター実施事業の現地調査（LEDで地球にやさしい城下町づくりコンソーシアム）
12月22日（木） ECOリパブリック白神事務所(青森県弘前市)

⑤ 全国センターによる事業内容に関する直接支援

- 1) 茨城県センターのコンソーシアム事業について協議
4月22日（金） 茨城県センター(茨城県水戸市)
- 2) 宮城県センターのコンソーシアム事業について協議
5月6日（金） 宮城県センター(宮城県仙台市)
- 3) 秋田県センターのコンソーシアム事業について協議
5月17日（火） 秋田県地球温暖化対策課（秋田県秋田市）
- 4) 長野市センターのコンソーシアム事業について協議
7月13日（水） 長野市センター(長野県長野市)
- 5) 長野県センターのコンソーシアム事業について協議
7月13日（水） 長野県センター(長野県長野市)
- 6) 青森県センターのコンソーシアム事業について協議
7月14日（木） 青森県センター(青森県青森市)
- 7) 奈良県センターのコンソーシアム事業について協議
7月15日（金） 近畿地方環境事務所(大阪府大阪市)
- 8) 秋田市センターおよび青森県センターのコンソーシアム事業について協議
12月8日（金） 東北地方環境事務所(宮城県仙台市)
- 9) 秋田市センターの事業実施結果について協議
3月16日（金） 秋田市センター(秋田県秋田市)

⑥ 情報交流ホームページの構築

(基本的なホームページの構成を作成して、各事業の概要を入力)

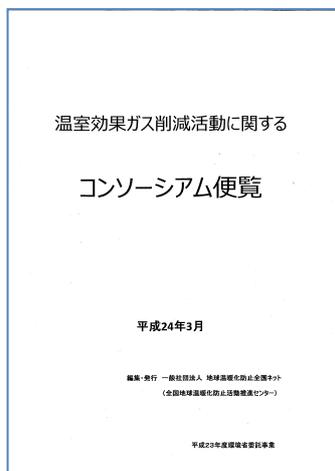


⑦ コンソーシアム便覧の作成

各地のコンソーシアム事業に関する基本的な情報を共有するため、「温室効果ガス削減活動に関するコンソーシアム便覧」を作成し、環境省及び各地域センターに配布した。

仕様：A4版、120頁、部数：200部

配布先：地域センター、環境省、地方環境事務所、指定を行っている都道府県市他



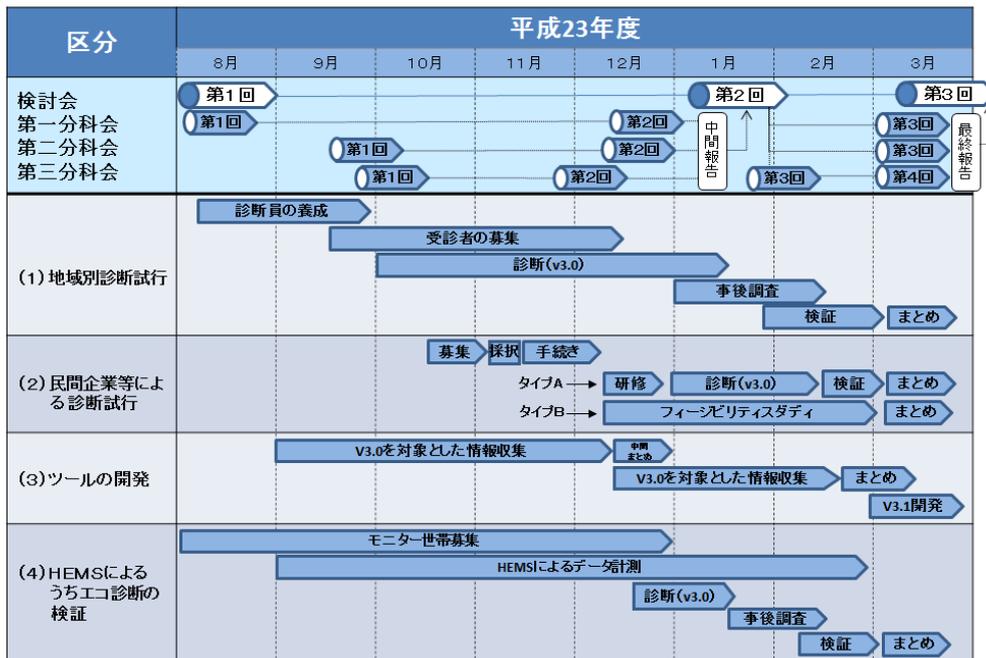


図 全体実施スケジュール

② 家庭エコ診断基盤整備事業検討会等の組織化

事業検討を進めるため、組織化した家庭エコ診断基盤整備事業検討会及び分科会の構成は次図のとおり。

氏名	所属	役職	専門
大久保 親子	大阪大学大学院法学研究科	教授	法律
金谷 年展	慶応大学大学院政策メディア研究科	教授	環境エネルギー政策
正田 吉之	大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻	教授	エネルギー
辰巳 菊子	(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会	常任理事	消費者代表
中上 英俊	(株)住環境計画研究所	代表取締役所長	エネルギー・環境
本藤 祐樹	横浜国立大学大学院環境情報研究院	准教授	エネルギー・LCA
松尾 雄介	(財)地球環境戦略研究機関	政策研究員	地球温暖化、ビジネス
三浦 秀一	東北芸術工科大学建築・環境デザイン学科	准教授	エネルギー(民生部門)
森口 祐一	東京大学大学院工学系研究科	教授	LCA、見える化

事務局:地球温暖化防止全国ネットワーク(JNCCA)

第一分科会	第二分科会	第三分科会
診断の方法論検討、効果検証	民間企業等による試行と制度検討	DBの構築と診断効果の定量化
氏名	氏名	氏名
青柳 みどり	大久保 親子	喜連川 優
所属: 国立環境研究所 社会環境システム研究領域環境計画研究室	所属: 大阪大学大学院法学研究科	所属: 東京大学生産技術研究所
依藤 佳世	金谷 年展	工藤 祐輝
所属: 国際経済労働研究所・研究員	所属: 慶応大学大学院政策メディア研究科	所属: (独)産業技術総合研究所
本藤 祐樹	曾根崎 雅治	古川 柳哉
所属: 横浜国立大学大学院環境情報研究院	所属: 連合総合政策局・社会政策局	所属: 東北大学大学院情報科学研究科
松尾 雄介	辰巳 菊子	本藤 祐樹
所属: (財)地球環境戦略研究機関	所属: (社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会	所属: 横浜国立大学大学院環境情報研究院
三浦 秀一	原尻 淳一	森口 祐一
所属: 東北芸術工科大学建築・環境デザイン学科	所属: 株式会社ブルームコンセプト	所属: 東京大学大学院工学研究科
山田 芳幸	松尾 雄介	事務局:凸版印刷・日本IBM
所属: (株)エックス都市研究所	所属: (財)地球環境戦略研究機関	事務局:JNCCA

※ 下線の委員は検討会及び分科会の座長

図 検討会及び分科会の構成

③ 検討会の開催

< 第一回検討会 >

日時：日時：平成23年8月1日（月）13時～15時

場所：航空会館501号室（東京都港区新橋1丁目18番1号）

議題：

- 1) 家庭エコ診断推進基盤整備事業検討会設置要綱（案）について
- 2) 委員長の選任について
- 3) 家庭エコ診断推進基盤整備事業について
 - ・家庭エコ診断推進基盤整備事業の背景・必要性等と全体構成について
 - ・家庭エコ診断推進基盤整備事業（地域別診断試行実施等）について
 - ・家庭エコ診断効果検証実測調査事業について
- 4) 分科会の設置と検討会・分科会における検討事項案について
- 5) 分科会委員及び座長等の指名について
- 6) 検討会・各分科会等の開催スケジュールと進め方について

< 第二回検討会 >

日時：日時：平成24年1月10日（火）10時～12時

場所：航空会館603号室（東京都港区新橋1丁目18番1号）

議題：

- 1) 各分科会の役割とアウトプットの整理について
- 2) 各分科会の進捗状況について
 - ・第一分科会からの中間報告
 - ・第三分科会からの中間報告
 - ・第二分科会からの中間報告
- 3) 検討会における検討事項及び本年度のまとめの方針について

< 第三回検討会 >

日時：日時：平成24年3月28日（水）13時～16時

場所：航空会館202号室（東京都港区新橋1丁目18番1号）

議題：

- 1) 本年度事業の構成と本日の検討会の流れ
- 2) 各分科会からの最終報告について
 - ・データベースの構築と診断効果の定量化に係る分科会からの最終報告
 - ・診断の方法論検討および効果検証に係る分科会からの最終報告
 - ・民間企業等による試行と制度検討に係る分科会からの最終報告
- 3) 本年度事業の成果のまとめと次年度の方針について

④ 分科会の開催

□ 第一分科会

< 第一回 第一分科会 >

日時：平成23年8月2日（火）10時～12時

場所：情報オアシス神田 オアシス6（東京都千代田区神田須田町1-2-7）

議題：

- 1) うちエコ診断事業検討会・分科会設置要綱について
- 2) うちエコ診断事業について
 - ・うちエコ診断事業の全体構成について
 - ・うちエコ診断の実施（地域別診断試行実施等）について
 - ・うちエコ診断ソフトのデモンストレーション
- 3) 検討事項について
 - ・分科会における検討事項と今後の進め方
 - ・うちエコ診断ソフトの開発について
 - ・診断員の募集・研修について

< 第二回 第一分科会 >

日時：平成23年12月13日（火）10時～12時

場所：情報オアシス神田 オアシス1（東京都千代田区神田多町2-4）

議題：

- 1) 事業の全体像と分科会におけるアウトプットの整理について
- 2) うちエコ診断員の募集・研修結果と地域別試行実施状況について
- 3) 地域別試行実施における効果検証方針について
- 4) うちエコ診断ソフト改良方針について

< 第三回 第一分科会 >

日時：平成24年3月22日（木）13時～16時

場所：航空会館202号室（東京都港区新橋1丁目18番1号）

議題：

- 1) 本年度事業における結果の分析
- 2) 次年度に向けた課題の整理
 - ・診断プロセスの方針について
 - ・診断員の養成・認定の方針について
 - ・うちエコ診断ソフトの更新について
- 3) 第一分科会における成果のまとめと今後の課題について

□第二分科会

<第一回第二分科会>

日時：平成23年9月20日（火）10時～12時

場所：情報オアシス神田 オアシス1（東京都千代田区神田多町2-4）

議題

- 1) うちエコ診断事業検討会・分科会設置要綱について
- 2) うちエコ診断事業について
 - ・うちエコ診断事業の全体構成について
 - ・うちエコ診断の実施（地域別診断試行実施等）について
 - ・うちエコ診断ソフトのデモンストレーション
- 3) 分科会における検討事項と今後の進め方
- 4) 環境コンシェルジュ制度検討について
 - ・自立的な診断活動を普及させるための課題と論点の整理
- 5) 民間企業等試行実施について
 - ・業種の選定と論点整理について
 - ・試行実施の進め方とスケジュールについて

<第二回第二分科会>

日時：平成23年12月5日（月）15時～17時

場所：航空会館603号室（東京都港区新橋1丁目18番1号）

議題

- 1) 事業の全体像と民間実証の方針について
- 2) 民間企業等による試行実施について
 - ・募集結果について
 - ・試行実施の進め方について
- 3) 環境コンシェルジュ制度構築に向けた事業実施リスクについて
 - ・想定される事業実施リスクについて
 - ・個人情報管理について
- 4) うちエコ診断の地域における取組の状況について

<第三回第二分科会>

日時：平成24年3月15日（木）9時30分～13時

場所：航空会館502号室（東京都港区新橋1丁目18番1号）

議題

- 1) 民間企業等試行実施事業最終報告会（タイプA：2社、タイプB：3社）
- 2) 今年度の結果を受けたターゲットの分析
- 3) 事業実施におけるリスク等について（消費者問題について）
- 4) 環境コンシェルジュ制度の展開の方向性について

⑤ うちエコ診断員養成研修会の開催

うちエコ診断員養成のための研修会を下表のとおり開催し、診断員希望者のなかから資格要件（筆記試験、ロールプレイング試験ともに合格）があると認められた者をうちエコ診断員に認定した。認定に際しては、地域事務局、スーパーバイザー及び全国事務局の協議により認定者を決定した。

ブロック名	開催日時	開催場所	参加者人数	合格人数	合格率
北海道	8月27日(土) 13:00~17:30 8月28日(日) 9:50~16:30	佐藤水産文化ホール (札幌市中央区北4条西3丁目交洋ビル3F)	31	31	100%
東北	8月26日(金) 11:00~17:00 8月27日(土) 9:00~16:00	TKP仙台カンファレンスセンター ホール2B (宮城県仙台市青葉区花京院1-2-3)	76	58	76%
関東北	9月10日(土) 13:00~17:00 9月11日(日) 10:00~17:00	スター貸会議室新宿御苑 603号室 (東京都新宿区新十区2-1-13 フーバー新宿御苑)	59	43	73%
関東南	9月8日(木) 13:00~17:00 9月9日(金) 10:00~17:00	情報オアシス 神田セミナーハウス オアシス4 (東京都千代田区神田多町2-4)	45	37	82%
中部	8月6日(土) 13:00~17:00 8月7日(日) 9:00~16:00	石川県国際交流センター 大研修室BC (石川県金沢市本町1丁目5番3号リファール3階・4階)	45	34	76%
近畿	9月17日(土) 13:00~17:00 9月18日(日) 10:00~17:00	大阪府立男女共同参画・青少年センター 特別会議室 (大阪市中央区大手前1-3-49)	78	65	83%
中四国	10月1日(土) 13:00~17:00 10月2日(日) 9:00~17:00	岡山市勤労者福祉センター 5F 体育集会室 (岡山県岡山市北区春日町5-6)	86	77	90%
九州沖縄	8月30日(火) 12:30~18:30 8月31日(水) 8:30~16:00	かごしま県民交流センター (鹿児島市山下町14-50)	80	73	91%
合計			500	418	84%

注：追加研修会を10月13日(木)~14日(金)に全国を対象に開催したが、これらの参加者人数及び合格者人数は、参加者の各ブロックに含めた。



座学（第1講座、第2講座など）の様子（近畿会場）



スーパーバイザーによるデモ診断の様子（近畿会場）



ソフトの操作（第1講座、第2講座など）の様子（九州会場）



ロールプレイング試験の様子（九州会場）

平成23年度のうちエコ診断員の男女別比率はおおよそ、7：3（男性：女性）であった。うちエコ診断員の年齢（年代）構成は、男性の場合、60歳以上が最も多くなっているのに対して、女性の場合は、50歳代を中心に男性の場合ほどの差は見られなかった。

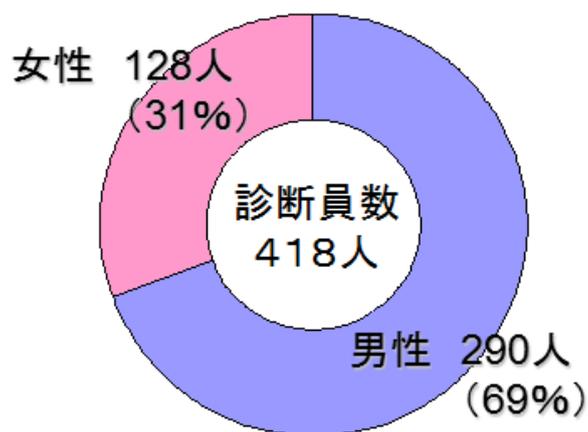


図 平成23年度うちエコ診断員男女比率

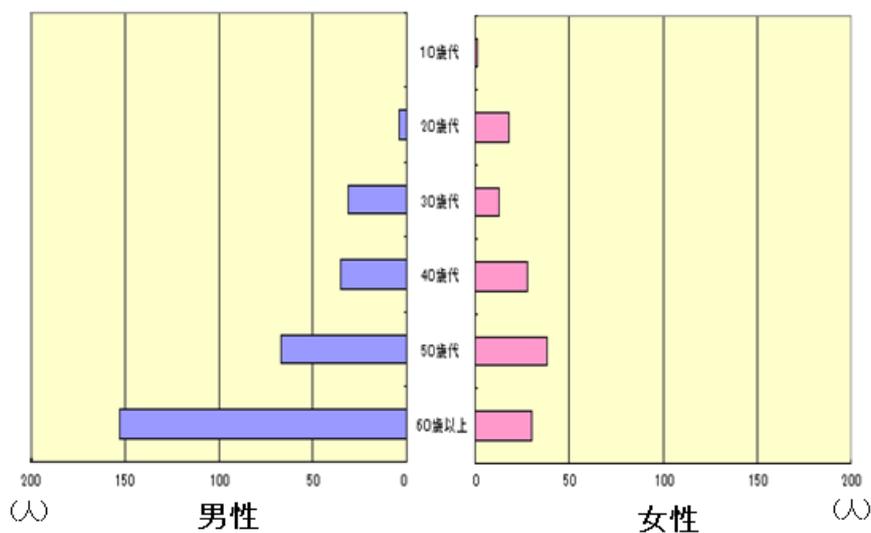


図 平成23年度うちエコ診断員年代別構成

うちエコ診断員の職業別の構成は、各種団体が最も多く、次いで家電・工務店関連以外の企業の従業員となっていた。また、その他が最も多くの割合を占めているが、これらのうち、60歳以上の診断員数は90人（男性：69人、女性21人）であり、60歳未満のうちエコ診断員は、120人となっていた。その他には学生、主夫・主婦などが考えられた。

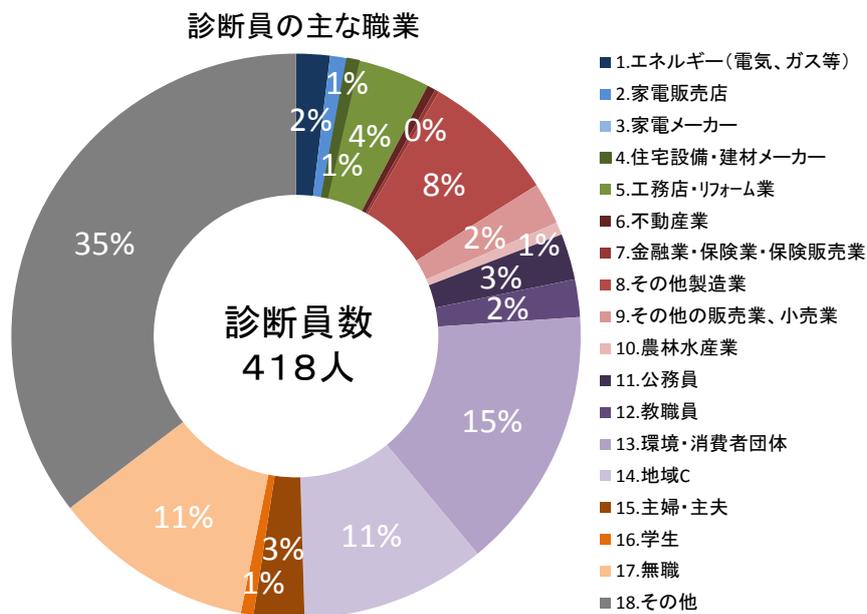


図 平成23年度うちエコ診断員職業別構成

⑥ スーパーバイザー派遣

全国事務局では、うちエコ診断実績が豊富で、他のうちエコ診断員への指導を行うことのできるうちエコ診断員を上級診断員として位置づけ、スーパーバイザー的な役割を果たす制度（スーパーバイザー制度）を構築し運営した。本年度の上級診断員としては全国で7名を認定し、スーパーバイザー派遣を通して、うちエコ診断員の支援にあたった。

このスーパーバイザー制度は、地域事務局の依頼により、全国事務局から上級診断員（スーパーバイザー）と全国ネット職員を派遣し、地域事務局に所属するうちエコ診断員を技術面からフォローするものであり、本年度は以下の7件の派遣を行った。

スーパーバイザー派遣一覧

地域事務局	開催日	開催時間	受診者数	研修形態	SV	全国事務局
A 石川県	10月8日(土)	10:00-16:30	9	フォローアップ研修	藤田	川原
B 鹿児島県	10月23日(日)	8:45-12:30	12	フォローアップ研修	原	川原
C 岩手県	10月22日(土)	10:30-16:00	5	集団研修	真田	宮腰
D 川崎市	11月2日(水)	10:00-12:00	8	フォローアップ研修	塚本	中垣
E 岡山県	10月29日(土)	13:00-17:00	14	フォローアップ研修	福村	川原
F 香川県	10月21日(金)	13:00-16:30	13	フォローアップ研修	福村	木場
G 大分県	11月15日(火)	13:00-16:15	12	フォローアップ研修	真田	川原



a. 石川県地域事務局への派遣のようす



b. 鹿児島県地域事務局への派遣のようす



c. 岡山県地域事務局への派遣のようす

⑦ うちエコ診断の実施結果

本年度に実施した地域別診断試行では、地域事務局と診断員により、4,662 件の診断が実施され、4,400 件の目標に対して 106%の達成率となった。また、これらの他に、HEMS が導入された家庭からの 584 件のうちエコ診断の申込みを受け、診断を実施した。

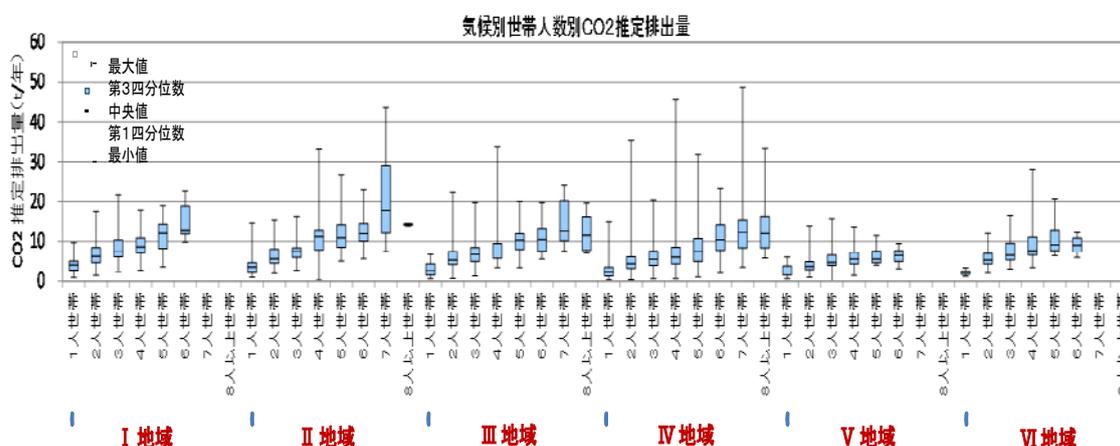
うちエコ診断地域実証実施件数									
BLOCK 番号	地域幹事事務局	地域事務局	目標数	各月別診断実施件数					合計
				10月	11月	12月	1月		
BLOCK1	北海道	① 北海道	300	50	145	105	0	300	(100%)
BLOCK2	秋田県	① 青森県	100	12	18	54	17	101	(101%)
		② 岩手県	100	8	4	60	62	134	(134%)
		③ 宮城県	100	1	18	34	47	100	(100%)
		④ 秋田県	100	21	8	47	54	130	(130%)
		⑤ 山形県	100	1	0	83	32	116	(116%)
		⑥ 福島県	100	5	37	42	15	99	(99%)
BLOCK3	埼玉県	① 茨城県	100	0	25	18	30	73	(73%)
		② 栃木県	100	2	0	29	19	50	(50%)
		③ 群馬県	100	1	4	30	58	93	(93%)
		④ 埼玉県	100	0	8	48	69	125	(125%)
		⑤ 新潟県	100	1	17	33	57	108	(108%)
BLOCK4	静岡県	① 千葉県	100	10	6	13	13	42	(42%)
		② 神奈川県	100	5	10	18	6	39	(39%)
		③ 川崎市	100	9	16	5	8	38	(38%)
		④ 静岡県	100	0	25	35	40	100	(100%)
BLOCK5	福井県	① 富山県	100	0	58	38	4	100	(100%)
		② 石川県	100	7	5	18	70	100	(100%)
		③ 福井県	100	10	9	20	60	99	(99%)
		④ 長野県	100	30	22	6	18	76	(76%)
BLOCK6	大阪府	① 滋賀県	150	71	44	54	1	170	(113%)
		② 京都府	150	8	37	131	15	191	(127%)
		③ 大阪府	150	10	94	44	52	200	(133%)
		④ 兵庫県	150	31	44	44	124	243	(162%)
		⑤ 奈良県	100	0	17	39	50	106	(106%)
		⑥ 和歌山県	100	17	37	32	10	96	(96%)
		小計	800	137	273	344	252	1,006	(125%)
BLOCK7	岡山県	① 島根県	100	19	10	24	71	124	(124%)
		② 鳥取県	100	0	62	51	11	124	(124%)
		③ 岡山県	100	23	63	36	14	136	(136%)
		④ 山口県	100	5	40	47	29	121	(121%)
		⑤ 香川県	100	31	35	52	0	118	(118%)
		⑥ 徳島県	100	3	1	98	0	102	(102%)
		⑦ 高知県	100	20	20	22	38	100	(100%)
BLOCK8	鹿児島県	① 福岡県	100	15	68	32	4	119	(119%)
		② 佐賀県	100	6	10	43	42	100	(100%)
		③ 長崎県	100	17	15	22	34	88	(88%)
		④ 熊本県	100	0	12	116	0	128	(128%)
		⑤ 大分県	100	17	36	32	33	118	(118%)
		⑥ 鹿児島県	100	12	6	38	86	142	(142%)
		⑦ 沖縄県	100	6	48	1	58	113	(113%)
		小計	700	73	195	284	257	808	(115%)
合計			4,400	484	1,134	1,694	1,351	4,662	(106%)

⑧ 地域別家庭エコ診断の実施結果のまとめ

本年度のうちエコ診断の実施結果（4,662 件）を対象に CO₂ 排出状況、削減状況を 1) 気候区別の CO₂ 排出量（推計値）の状況、2) うちエコ診断による削減効果のまとめ、3) 満足度調査のまとめで整理した。

1) 気候区別の CO₂ 排出量（推計値）の状況

気候区分（※ibec の気候区分）別の CO₂ 排出量（うちエコ診断ソフトによる）を以下に示す。比較的温暖な地域である V 地域や VI 地域に比べて、寒冷な地域である I 地域や II 地域の方が、CO₂ の排出量（推計値）は高い値となっていた。これらは、冬期における暖房の影響と考えられた。



気候区分別 CO₂ 推定排出量の推計

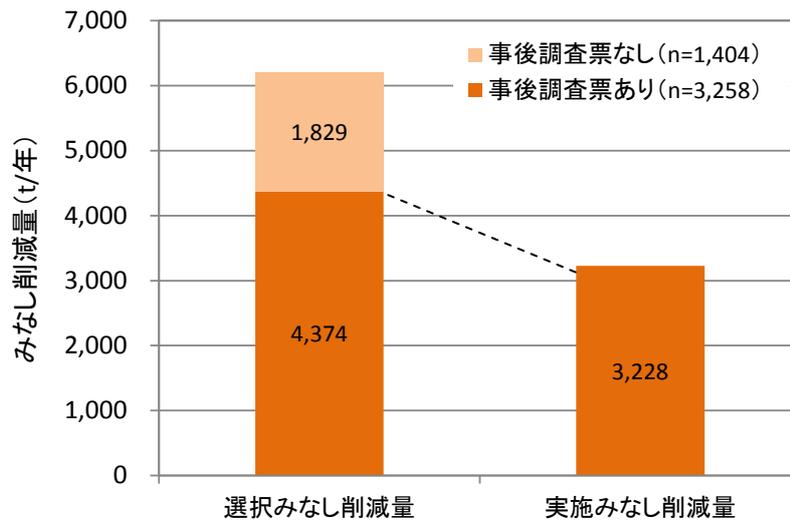
※ibec の気候区分：一般社団法人建築環境・省エネルギー機構による次世代省エネルギー基準の地域区分 (<http://www.ibec.or.jp/pdf/sjuutaku12.htm>)

2) うちエコ診断による削減効果のまとめ

うちエコ診断診断では効果測定のために、診断実施の約 3 か月後に地域事務局から受診家庭に対して、事後調査票を送付して、診断後の約 3 か月間でどれだけ対策が実施されたかを計測した。

具体的には、4,662 世帯に送付した事後調査票は 3,258 票が回収され、回収率は約 70%となった。これらの回収された事後調査票を用いて、事後調査票の評価ツールを用いて、実施された対策のみなし削減量を推計した。

うちエコ診断の受診時に提案した総対策によるみなし削減量と比較したものを次の図に示す。



平成 23 年度うちエコ診断事業におけるみなし削減量

3) 満足度調査のまとめ

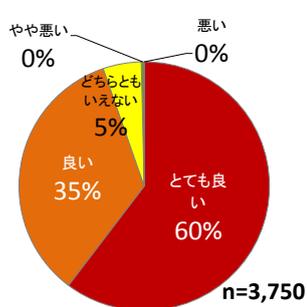
最後に、うちエコ診断の受診者に対して、うちエコ診断全般に関する満足度調査を実施した。以下に、うちエコ診断員に関する質問を抜粋し、その結果を示す。

満足度調査は、すべての受診世帯に対して実施し、回答のあった 4,285 の満足度調査票に対してまとめた。なお、下図の n の数字は、設問ごとの有効回答数を示す。

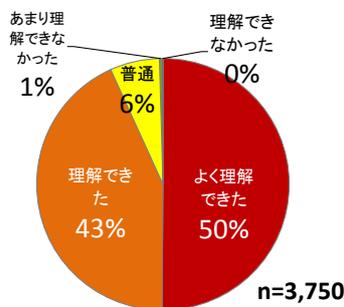
Q1：診断員の訪問・診断態度はいかがでしたか。

Q2：診断員の説明や提案はよく理解できましたか。

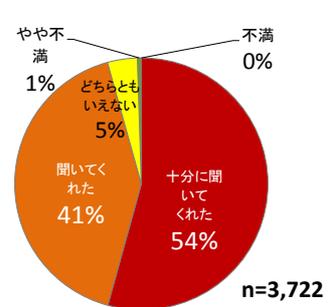
Q3：診断員はあなたの生活様式や個別の状況を十分に聞いた上で提案をしてくれましたか。



Q1：態度に関する質問



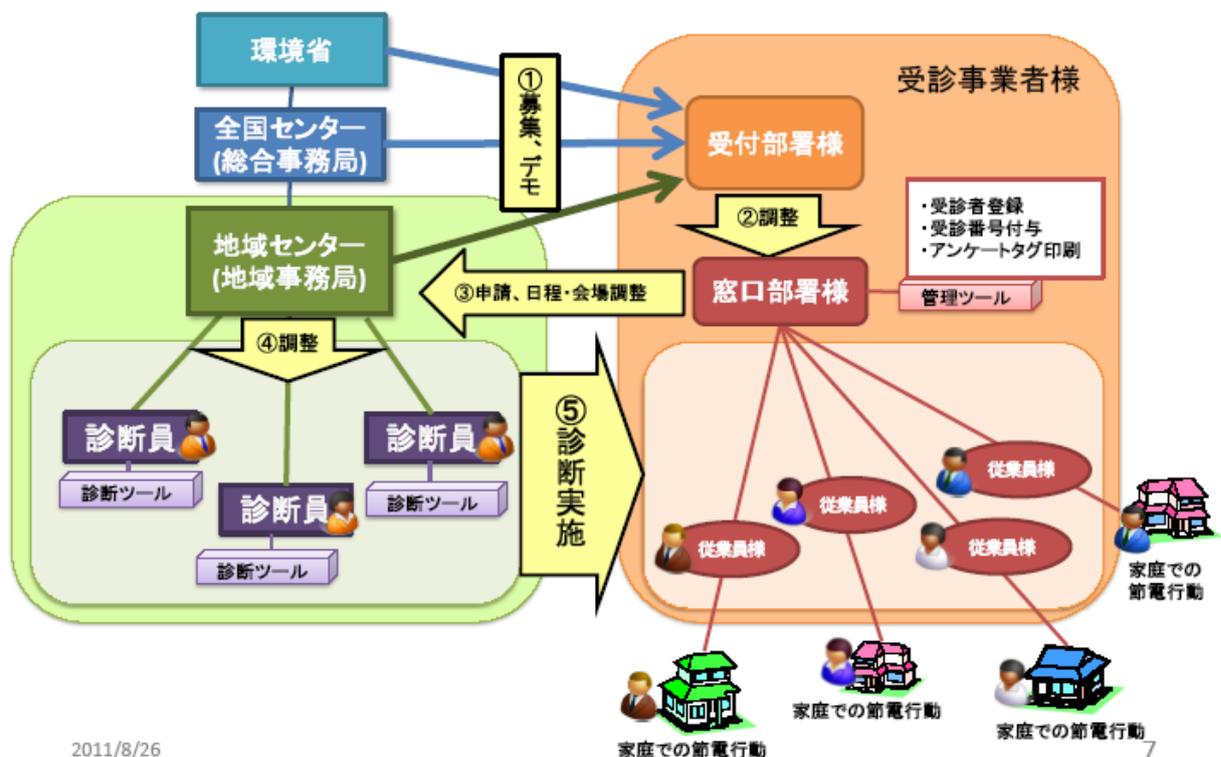
Q2：理解度に関する質問



Q3：状況把握に課する質問

(4) 平成23年度サプライチェーンにおける温室効果ガス排出削減のための従業員の家庭における取組支援事業

事業者のサプライチェーンにおける温室効果ガスの排出量削減に関連する取組みの一つとして、首都圏の事業所従業員の家庭における日常生活の中でのエネルギー消費量や温室効果ガスの排出量及び削減ポテンシャルを把握し、省エネ・省CO2対策行動を提示し、行動変化による温室効果ガス排出量の低減を図り、事業者のサプライチェーンとしての取組みを評価するために、首都圏における地域センターと協働して家庭エコ診断を実施し、その実施効果を測定するとともに、夏期と冬期の節電対策に対して集中的に家庭エコ診断を実施し、効果的な節電対策についても受診事業者の従業員に対してアドバイスを行った。



2011/8/26

- ① 総合事務局：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
- ② 地域事務局：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、川崎市及び静岡県の各地域センター
- ③ 募集期間 夏期：5月19日～8月31日 冬期：10月20日～12月22日
- ④ 診断期間 夏期：5月上旬～9月末 冬期：11月1日～1月13日
- ⑤ 診断員の確保：各地域センターから推薦があった者及び近畿圏の地域センターから推薦のあった者

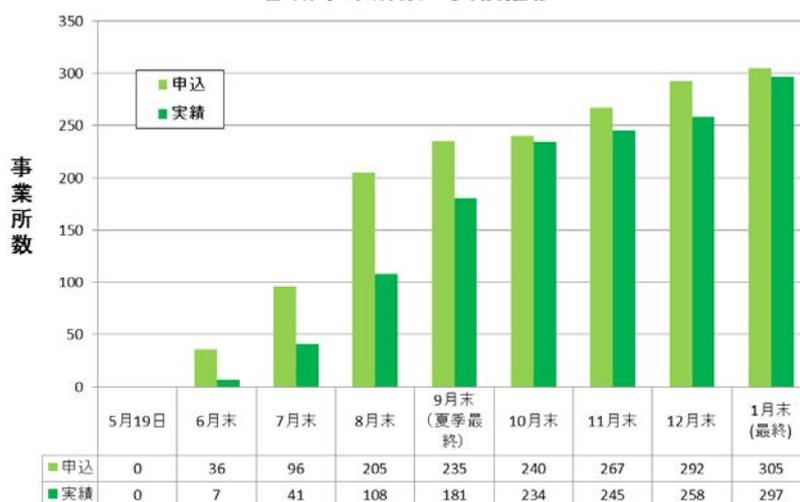
従業員家庭エコ診断の実施結果

事務局	委託契約上の 予定診断 実施数 (A)	診断実施数		実施 進捗率 (B/A×100)
		事業所数	全診断数 (B)	
茨城	450	38	448	99.6%
栃木	750	17	197	26.3%
群馬	750	19	178	23.7%
埼玉	900	28	281	31.2%
千葉	600	36	344	57.3%
東京	4,350	59	847	19.5%
神奈川	600	25	182	30.3%
静岡	900	45	560	62.2%
川崎	450	30	191	42.4%
計	9,750	297	3,228	33.1%

診断数の実績推移



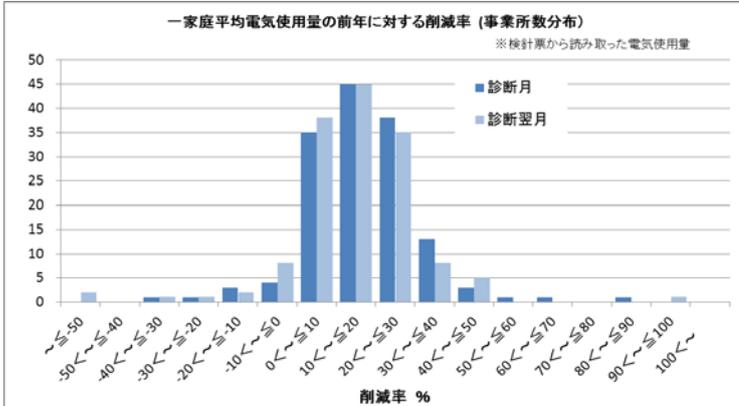
診断事業所数の実績推移



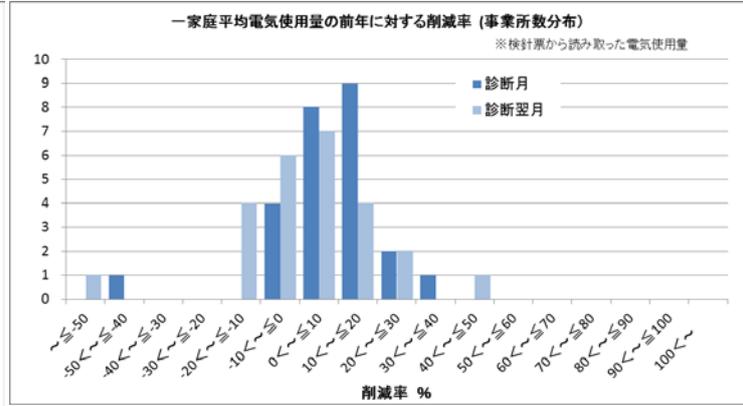
⑥ 実施結果の評価分析について

- ・参加事業者へのフィードバック：夏期の結果と冬期の結果を集計して報告した。

(夏期の診断結果)



(冬期の診断結果)



(夏期の節電・節CO2 対策)

	①診断時の提案で選択が多かった対策		②診断後「実行」の回答が多かった対策		③実行対策の内、電力削減効果の寄与が大きかった対策	
1	コンセントからプラグを抜き、待機電力を減らす	47%	扇風機を使いエアコンを止める	58%	扇風機を使いエアコンを止める	15%
2	扇風機を使いエアコンを止める	44%	エアコンのフィルターを掃除する	51%	太陽光発電を設置する	11%
3	冷蔵庫の設定を「弱」にする	30%	コンセントからプラグを抜き、待機電力を減らす	49%	冷蔵庫を省エネ型に買い替える	9%
4	冷蔵庫を省エネ型に買い替える	29%	冷蔵庫の中身を詰めすぎない	41%	コンセントからプラグを抜き、待機電力を減らす	7%
5	テレビ画面を明るすぎないように調節する	26%	冷蔵庫の設定を「弱」にする	39%	給湯器をエコウィル(コージェネ)に買い替える	6%
6	冷蔵庫の中身を詰めすぎない	21%	夏に保温洗浄便座の保温を止める	38%	電球を電球型蛍光灯に付け替える	5%
7	エアコンを省エネ型に買い替える	20%	テレビ画面を明るすぎないように調節する	30%	衣類乾燥機や乾燥機能を使わずに天日乾燥させる	5%
8	蛍光灯をスリム型(HF式)に付け替える	20%	照明を点ける時間を1時間短くする	26%	エアコンのフィルターを掃除する	4%
9	冷蔵庫を壁から離して設置する	18%	テレビを点ける時間を1時間短くする	25%	冷蔵庫の設定を「弱」にする	3%
10	エアコンのフィルターを掃除する	18%	冷蔵庫を壁から離して設置する	19%	エアコンを省エネ型に買い替える	3%

(冬期の節電・節CO2 対策)

	①診断時の提案で選択が多かった対策		②診断後「実行」の回答が多かった対策		③実行対策の内、電力削減効果の寄与が大きかった対策	
1	暖房をする時間を1時間短くする	21%	暖房の設定温度を控えめにする	27%	太陽光発電を設置する	13%
2	蛍光灯をスリム型(HF式)に付け替える	20%	エアコンのフィルターを掃除する	25%	冷蔵庫を省エネ型に買い替える	8%
3	テレビを点ける時間を1時間短くする	17%	テレビを点ける時間を1時間短くする	23%	暖房の設定温度を控えめにする	8%
4	暖房の設定温度を控えめにする	16%	暖房をする時間を1時間短くする	20%	コンセントからプラグを抜き、待機電力を減らす	6%
5	コンセントからプラグを抜き、待機電力を減らす	12%	保温便座の温度設定を下げる	18%	衣類乾燥機や乾燥機能を使わずに天日乾燥させる	4%
6	テレビ画面を明るすぎないように調節する	11%	テレビを省エネ型に買い替える	17%	電球を電球型蛍光灯に付け替える	4%
7	冷蔵庫の設定を「弱」にする	11%	コンセントからプラグを抜き、待機電力を減らす	15%	暖房をする時間を1時間短くする	4%
8	節水シャワーヘッドを取り付けて利用する	10%	節水シャワーヘッドを取り付けて利用する	13%	エアコンを省エネ型に買い替える	3%
9	家族だんらんで一部屋で過ごすようにする	9%	冷蔵庫の中身を詰めすぎない	13%	薪・ペレットストーブを設置する	3%
10	エアコンのフィルターを掃除する	9%	給湯器をエコウィル(コージェネ)に買い替える	12%	エアコンのフィルターを掃除する	3%

(5) 民生部門の温室効果ガス排出実態・削減方策に係る調査・研究

家庭部門の温室効果ガス排出実態・削減方策の調査・研究のため、地域特性に応じた日常生活における利用に伴って温室効果ガスの排出される製品、役務について協働して基礎データの収集に努めた。

(6) 情報の収集及び提供

低炭素社会構築に向け、地球温暖化問題についての一般認識の向上や効果的な行動の促進を図るため、次の活動を行った。

① ホームページ等を活用した温暖化防止に関する情報の提供

1) アクセスの状況調査

毎月、全国センターウェブサイトへのアクセス状況の調査を行い、データを集計しており、平成23年3月1日～平成24年2月29日の月の平均ページビューは約208,084件、平均訪問者数は35,588人であった。

例年、夏に訪問者が多く、それを境に年度末に向けて徐々にページビューの数(閲覧数)も減少していく傾向がみられるが、今年度は特に夏の節電で閲覧数が上昇している様子が数値から読み取れた。冬の節電・節エネ・節CO2や12月のCOP17最新レポート等、逐一新情報を更新していることによって需要が伸びたと考えられた。

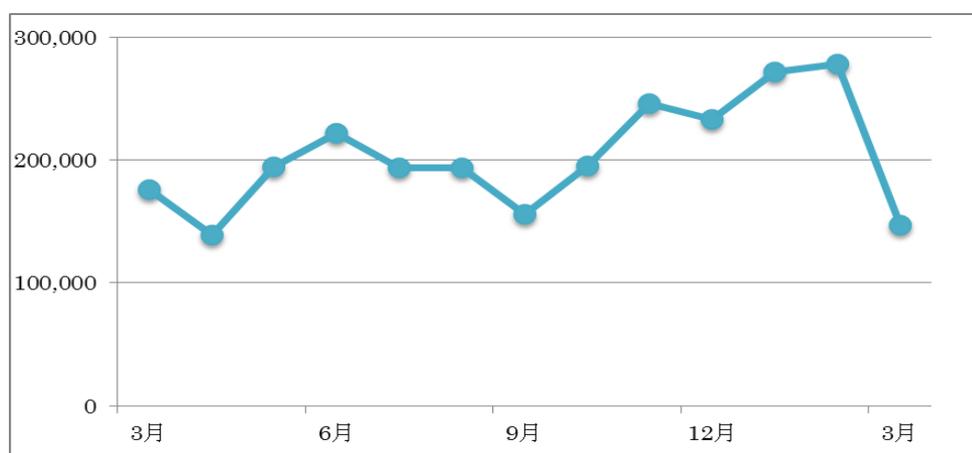


図 ページビュー数の推移

表 センターウェブサイトへのアクセス状況

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ページビュー数	175,768	138,608	194,696	221,548	193,730	193,488	155,704
訪問者	37,930	27,715	39,663	46,599	40,656	37,587	30,745
新規訪問者率	68.47	58.66	62.12	66.8	58.66	61.15	63.25
サイト全体への直帰率(%)	54.23	53.08	53.30	53.30	56.04	55.04	54.05
平均ページビュー数	4.63	5.00	4.75	4.77	4.77	5.15	5.06
平均滞在時間	3:03	3:16	3:13	3:13	3:22	3:28	3:08

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ページビュー数	194,924	245,960	233,052	271,713	277,820	146,896
訪問者	36,623	45,805	43,965	48,914	57,859	31,764
新規訪問者率	63.90	65.58	64.34	63.2	68.32	66.20
サイト全体への直帰率(%)	51.91	52.76	52.16	49.72	53.78	54.68
平均ページビュー数	5.32	5.37	5.30	5.55	4.80	4.62
平均滞在時間	3:24	3:21	3:23	3:35	2:54	2:45

2) アクセス数の多いページ ベスト5

(平成23年3月11日～平成24年3月31日)

▽すぐ使える図表集 232,505

<http://www.jccca.org/chart/>

▽地球温暖化とは 188,640

http://www.jccca.org/global_warming/

▽日本の動向 57,678

http://www.jccca.org/trend_japan/

▽家庭でできる夏の節電21/冬の節CO2 55,811

http://www.jccca.org/trend_world/

▽地球温暖化の原因と予測 46,417

http://www.jccca.org/global_warming/knowledge/kno02.html

② 地域センター等の活動状況等情報の整理と提供

低炭素社会構築に向けた温暖化防止に関する地域活動の先進事例や地域センター等の活動状況を調査して情報の整理を図り、これらを発信しつつ地球温暖化防止活動の促進を図った。

(7) 環境教育及び人材育成に係る支援事業

① 環境教育教材の開発及び更新の促進

1) 新規開発教材について

今夏および冬の節電・節エネ・節CO2に対する講座や学習会、イベントでの学習教材として、以下の4点を新規開発し、6月より貸出を行った。

<夏の節電教材ツール> 5月開発、6月貸出開始

●A03-05「わが家の節電～エアコン編～」

エアコンを切り口に自分の夏の生活スタイルを振り返りながら参加者一人一人が「がまん」、「無理」をしないで効果的で、続けていくことの出来る「自分に合った節電方法」を見つけていくツール。クイズやワークシートなどがセットになっている。

●A03-06「わが家の節電～図表セット～」

夏の節電について考えるきっかけになる図表の4枚セット。



<冬の節エネ・節CO2教材ツール> 9月開発、10月貸出開始

●E06「エコロモならべ」

「エコ」な「コロモ (衣)」の着方って？

衣類の調整で体感温度を上げ、暖房機器に頼りすぎない冬の過ごし方に興味を持ってもらい、過度なエネルギー消費を抑えることを促すツールとして開発。ユーザーからの要望に応じてイベントや学習会の導入部分で使える、短時間で気づきのきっかけになる新しいタイプの教材として新規シリーズ開発した。

●E07「暖冷たべものゲーム」

体を温める食べ物は？冷やす食べ物は？

暮らしの中で感じる気温の変化を冷暖房を使って調整するだけではなく、体の中から調整することを促すツールとして開発。



② 環境教育教材の貸出状況について(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

1) 月別貸出件数について

今年度のツール貸出件数は、167団体、ツール数445件であった。10月から12月までは行事やイベント事が多い時期のため、件数は平均的に借りられている事が分る。月別の貸出件数(団体数)の推移を次図に示す。

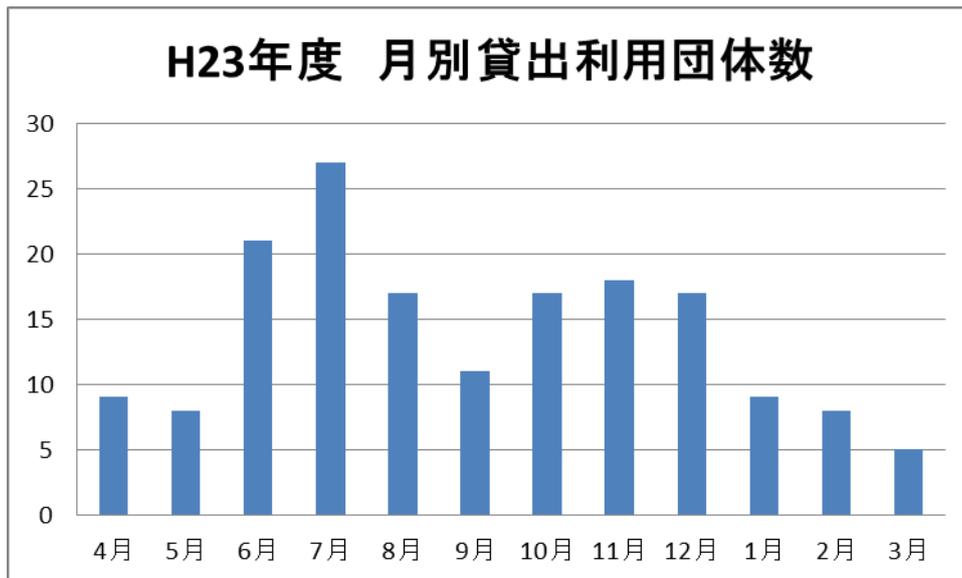


図 貸出件数の推移（月別）

2) 貸出利用団体内訳について

貸出利用団体内訳は次図に示す通り、推進員・NPO が 32%となり、全体の約 1/3 を占めていた。

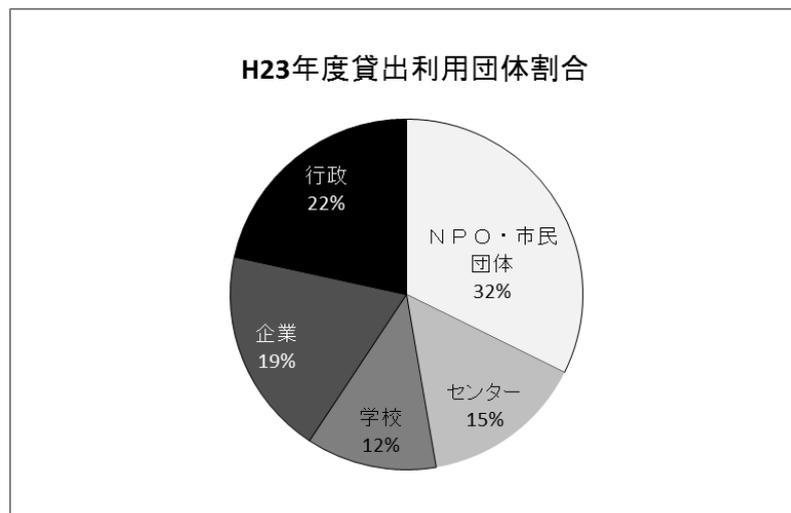


図 貸出利用団体内訳

3) 貸出件数の多いツールベスト 5

次の表に示す通り、参加型のプログラムがついている A ツールを中心とした貸出件数が多かった。その他、冬の節電需要の影響で E06「エコロモならべ」と E07「暖冷たべものゲーム」も、後期に新しく加わったが、貸出件数が多かった。

表 貸出件数の多いツールベスト 5

順位	プログラム
1	A02-01「持てるかな？エネルギーのかばん」
2	A01-02「敏感な私たち」
2	A03-04「エコのタネをみつけよう」
3	A04-02「夜の地球（中）」
4	A03-05「わが家の節電 ～エアコン編～」
5	A01-03「地球が病気!？」

③ 活用指導について

地域センター等の要望に応じて、主に地域センター職員や地球温暖化防止活動推進員を対象に、環境教育教材のより有効な活用手法等のノウハウを伝えるため、各地域における現地指導を実施した。

1) 川崎市センター

日時：平成 23 年 9 月 24 日（土）15:00～18:30

場所：CC等々カエコ暮らしこフェア 川崎市センターブース

内容：全国ネット職員による、川崎市センター職員に対して、A02-01「持てるかな？エネルギーのかばん」、新規作成の試作環境教育教材の実施と解説、紹介を行った。新規作成教材（上記新規開発教材の項の冬のツール 2 点）に関しては意見交換も行い、それをもとに開発、製作を行った。

1) 宮城県センター

日時：平成 24 年 1 月 31 日（火）13:00～16:00

場所：財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク 事務所

内容：全国ネット職員による、宮城県センター職員に対して、今夏、新規作成した環境教育教材の宮城県コンソーシアムにおける使用事例に対するヒアリングと、今冬に新規開発した教材の紹介、今後の活用と展開の展望について意見交換を行った。



4. 普及啓発・広報事業の推進

普及啓発・広報展開にあたっては、「普及啓発・広報計画」を作成し、計画的に法人の情報誌、ホームページ、e-mail、新聞・TV・ラジオ等のマスメディアを通じて積極的に情報提供を行い、また国、自治体広報紙、賛助会員企業等の広報媒体も積極的に活用し、タイムリーな情報を提供した。

(1) メディア、インターネットによる情報提供

国民、NPO、企業、自治体等に対し、温暖化対策に係る各種情報の提供を行うため、メディアに対して積極的に発信するとともに、メディアとのネットワークを形成し、またホームページを利用し、法人の活動情報や各種環境情報の提供を行ってきた。

特に3月11日の東北大震災発生後の主な情報提供・取材対応等は以下のとおりである。なお、節電に関するものが、中心であった。

表 主な取材対応リスト

No	掲載日 (放送日)	媒体・番組名	カテゴリー	タイトル等	取り上げられた事業等
1	H23. 3. 16	共同通信社総合ニュース	通信社	家庭の節電策を提案 温暖化防止センター	節電21
2	H23. 3. 19	朝日新聞	全国紙	節電に厚着や照明交換	節電21
3	H23. 3. 27	新潟県民エフエム「MOVE ON STREET」	ラジオ	家庭での節電方法について	節電21
4	H23. 3. 31	J-WAVE「HELLO WORLD」	ラジオ	節電の方法	節電21
5	H23. 4. 3	NHK ニュース7	テレビ	流山市の自治会が節電の勉強会を開催	節電21
6	H23. 4. 6	NHK 首都圏ニュース	テレビ	家庭の節電対策は	節電21
7	H23. 4. 14	NHK 首都圏ニュース	テレビ	夏に備えて 家庭の節電策	節電7
8	H23. 4. 14	スポニチアネックス	ウェブ	暑い夏はこれで乗り切れ！エアコンの節電ポイントを紹介	節電7
9	H23. 4. 18	電波新聞	専門紙	家庭の節電策	節電共同行動
10	H23. 4. 18	テレビ朝日「東京サイト」	テレビ	エコ生活	なし(家庭の紹介のみ)
11	H23. 5. 2	毎日新聞	全国紙	家庭の節電 こまめに努力	節電21
12	H23. 5. 3	Cスカパー「TVグローボ・インターナショナル」	テレビ	地球温暖化の現状と対策について (ポルトガル語放送)	節電21
13	H23. 5. 9	足立区「震災対応・節電特別番組」	ケーブルテレビ	震災対応・節電特別番組	節電21
14	H23. 5. 13	NHK ニュース7	テレビ	家庭の節電策	節電マニュアル

No	掲載日 (放送日)	媒体・番組名	カテゴリー	タイトル等	取り上げられた事業等
15	H23. 5. 16	循環経済新聞	業界紙	地球温暖化防止展へのメッセージ	全国ネット事業
16	H23. 6. 1	環境省e-magazine 「エコジン」	ウェブ マガジ ン	無理なく続ける、エコ生活	団体名のみ
17	H23. 6. 2	日本経済新聞	全国紙	オフィスの節電「従業員に対する家庭エコ 診断」	家庭エコ診断 (首都圏)
18	H23. 6. 8	しんぶん赤旗	全国紙	無理なく続けるわが家の節電	節電7
19	H23. 6. 12	テレビ朝日	テレビ	価値観ギャップバラエティ～「トイエバ」 節電方法の紹介	節電7
20	H23. 7. 7	読売新聞	全国紙	節電を「戸別」指導	家庭エコ診断 (首都圏)
21	H23. 7. 10	パコマ	フリー ペーパ ー	節電の夏を快適に乗り切る工夫	節電21(夏)
22	H23. 7. 10	新潟日報	地方紙	日報カルチャー教室「家庭でできるかんた ん節電術」	節電21(夏)
23	H23. 7. 14	日本経済新聞電子 版	全国紙	「オール電化住宅」の節電術 夏を乗り切 るには	節電21(夏)
24	H23. 8. 10	日本経済新聞	全国紙	家庭の節電広がる 専門家指南やセミナ ー奏功	家庭エコ診断 (首都圏)
25	H23. 10. 13	住宅産業新聞	専門紙	低炭素杯2012 エントリー開始 連携の 輪広げる「場」に	低炭素杯2012
26	H23. 10. 15	かんきょう新聞	専門紙	ご家庭の省エネ・CO2削減にすぐ役立つう ちエコ診断を受診しませんか?	うちエコ診断
27	H23. 10. 17	読売新聞	全国紙	「低炭素杯」に出よう	低炭素杯2012
28	H23. 10. 21	会議所ニュース	専門紙	来年2月に「低炭素杯」を開催 温暖化防 止に取り組む企業を募集	低炭素杯2012
29	H23. 10. 29	読売新聞	全国紙	体も心もホット21の節電術	節電21(冬)
30	H23. 11. 12	東京FM	ラジオ	日本興亜損保Eco Action World	節電21(冬)
31	H23. 11. 17	聖教新聞	全国紙	節電・省エネ 家庭でできる冬の取り組み	節電21(冬)
32	H23. 12. 2	読売新聞	全国紙	論点 家庭の節電 冬こそ本番	節電21(冬)
33	H23. 12. 20	産経新聞(近畿版)	地方紙	関電 冬の節電スタート	節電21(冬)
34	H23. 12. 22	読売新聞(近畿版)	地方紙	シニア探検隊「賢い」住宅 楽々省エネ	うちエコ診断
35	H24. 1. 10	河北新報	地方紙	あなたに合う省エネは 全国ネット「うち エコ診断」宮城でも	うちエコ診断
36	H24. 1. 12	NHKBS	テレビ	石巻市立湊小学校で卒業記念トロフィー を制作	低炭素杯2012
37	H24. 1. 13	毎日新聞(宮城県 版)	地方紙	「震災乗り越え頑張った」 石巻・湊小6 年生 記念のがれきトロフィー	低炭素杯2012
38	H24. 1. 13	NHK総合	テレビ	石巻市立湊小学校での卒業記念トロフィ ーの制作について	低炭素杯2012
39	H24. 1. 13	毎日新聞 宮城	地方紙	「震災乗り越え頑張った」 石巻・湊小6 年生 記念のがれきトロフィー	低炭素杯2012
40	H24. 1. 14	信州日報	地方紙	低炭素杯決勝に出演 おひさま進歩	低炭素杯2012

No	掲載日 (放送日)	媒体・番組名	カテゴリー	タイトル等	取り上げられた事業等
41	H24. 1. 19	盛岡タイムス	地方紙	いわてバイオディーゼル 低炭素杯出場	低炭素杯2012
42	H24. 1. 20	京都新聞	地方紙	里山再生実験 全国大会へ 東京で来月「低炭素杯」西山森林整備協 「活動の先進性伝えたい」	低炭素杯2012
43	H24. 1. 24	NHK総合（関東圏）	テレビ	石巻市立湊小学校での卒業記念トロフィーの制作について	低炭素杯2012
44	H24. 1. 25	朝日新聞	全国紙	環境 創エネ省エネ33 暮らしを診断 細やかエコ術	うちエコ診断
45	H24. 1. 28	米澤新聞	地方紙	米工高プロジェクト全国へ 来月18、19日低炭素杯で自然エネの電気自動車をPR	低炭素杯2012
46	H24. 2. 1	徳島新聞	地方紙	那須の小水力発電発表 18・19日都内で低炭素杯 阿南高専生3人出場	低炭素杯2012
47	H24. 2. 6	ソトコト	専門紙	ソトボラ新聞 石巻 がれきで卒業記念トロフィー 卒業生25人に造形化がレクチャー	低炭素杯2012
48	H24. 2. 7	建設通信新聞	専門紙	「節電40%住宅」仏TVで放映	団体名のみ
49	H24. 2. 9	岩手日報	地方紙	物資運搬支えたバイオ燃料 震災時、軽油不足カバー	低炭素杯2012
50	H24. 2. 12	Arte（アルテ） （※フランス）	テレビ	日本のこれからの新エネルギー発電と電気に対する新しい意識についての特集	なし（家庭の紹介のみ）
51	H24. 2. 15	秋田魁新報	地方紙	地下水熱ヒートポンプ 温度安定、低コスト	低炭素杯2012
52	H24. 2. 15	東京都トラック時報	専門紙	東ト協GEPが最優秀イノベーション賞を受賞	低炭素杯2012
53	H24. 2. 20	福島民報	地方紙	ふくしま経済 低炭素杯環境大臣賞準グランプリ 仲田種苗園（石川）受賞	低炭素杯2012
54	H24. 2. 20	ガラス新聞	専門紙	マテックス 最優秀家庭エコ賞受賞	低炭素杯2012
55	H24. 2. 20	福島民報	地方紙	ふくしま経済 低炭素杯環境大臣賞準グランプリ 仲田種苗園（石川）受賞	低炭素杯2012
56	H24. 2. 22	熊本日日新聞	地方紙	熊本市の山東保育園 「低炭素杯」地域エコ活動賞	低炭素杯2012
57	H24. 2. 22	信州日報	地方紙	おひさま進歩が特別賞に 低炭素杯決勝で	低炭素杯2012
58	H24. 2. 22	南信州新聞	地方紙	低炭素杯12最優秀イノベーション賞	低炭素杯2012
59	H24. 2. 27	福島民友	地方紙	石川の仲田種苗園 自然に優しい生活提案 低炭素杯コンテスト金賞	低炭素杯2012
60	H24. 2. 27	農経しんぼう	専門紙	大臣賞に栃木農高 低炭素杯2012グランプリに	低炭素杯2012
61	H24. 2. 27	農経しんぼう	専門紙	低炭素杯で特別賞 ENEXが節電対策貢献活動賞	低炭素杯2012
62	H24. 2. 29	東京新聞（夕刊）	地方紙	エコにヨシ 地元の誉れ 「低炭素杯」栃木農高がグランプリ	低炭素杯2012

※1 No2 については、共同通信社が地方紙等に配信を行ったため、北海道新聞、西日本新聞はじめ 20 以上の地方紙や MSN 産経ニュースやスポニチアネックスなどのウェブニュースに掲載された。

(2) 情報誌の発行

情報誌「全国ネット通信」を当法人会員であることのメリットのひとつとして位置づけ、環境にかかる様々な情報、調査報告、寄稿などと併せ、低短炭素社会構築に向け地球温暖化対策や国民、NPO、企業、自治体等に情報提供を行うため、発行した。



全国ネット通信 春号 (第2号)

発行日：平成23年4月1日

発行部数：1,500部

体裁：A4 二つ折り (表カラー、中1色)

主な内容

- ・ トップダウン型ガバナンスの終焉 (西岡秀三氏より寄稿)
- ・ 全国ネット 平成23年度事業計画
- ・ 家庭ですぐ出来る節電21
- ・ 地域の活動紹介 (低炭素杯2011 グランプリ：オフィス町内会)
- ・ ウェブサイトリリース

など



全国ネット通信 夏号 (第3号)

発行日：平成23年6月5日

発行部数：1,000部

体裁：A4 二つ折り (表カラー、中1色)

主な内容

- ・ 福島原子力発電所事故と地球温暖化問題 (早川光俊氏より寄稿)
- ・ 家庭ですぐ出来る夏の節電特集
- ・ 地域センター紹介 (浜松市センター)
- ・ 地域の活動紹介 (低炭素杯2011 準グランプリ：六月田下自治会)
- ・ イギリス視察訪問報告会告知

など



全国ネット通信 秋号 (第4号)

発行日：平成23年10月1日

発行部数：1,000部

体裁：A4 二つ折り (表カラー、中1色)

主な内容

- ・ 暑い夏に思う「適応」の重要性 (関正雄氏より寄稿)
- ・ うちエコ診断申込受付中
- ・ 地域センター紹介 (熊谷市センター)
- ・ 低炭素杯2012 エントリー募集告知
- ・ 家庭ですぐ出来る冬の取組み など



全国ネット通信 冬号（第5号）

発行日：平成24年1月1日

発行部数：1,500部

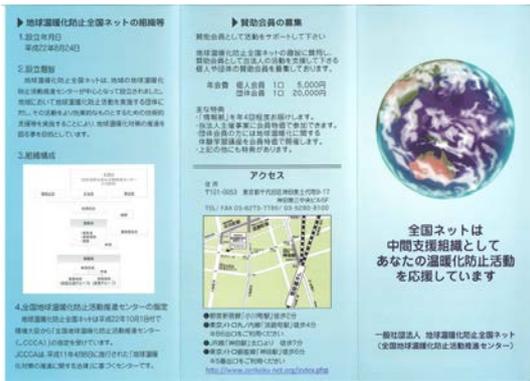
体裁：A4 二つ折り（表カラー、中1色）

主な内容

- ・理事長、環境省 地球環境局長 年頭挨拶
- ・気候変動枠組条約第17回締約国会議（COP17）
- ・地域センター紹介（川崎市センター）
- ・低炭素杯2012全国大会と特別シンポジウム告知
- ・冬の節CO2マニュアル作成リリースのお知らせなど

(3) 団体パンフレットの発行

イベント・ブース出展をはじめ様々な場所での全国ネットの周知と環境省賛助会員の獲得を目指して、当法人自体を紹介するパンフレットを発行した。



外面



中面

団体パンフレット

発行日：2011年12月12日

発行部数：5,000部

体裁：100×210（展開A4） 3つ折り

主な内容

- ・ごあいさつ（長谷川理事長）
- ・地球温暖化防止全国ネットの活動
- ・地球温暖化防止全国ネットの組織等
- ・賛助会員の募集

(4) 出前環境教室の開催

市民に対する温暖化防止学習機会の提供のため、当法人が有する人的・知的資源と資材を活用して、小中学校・高校・大学、地域団体やグループ、企業が行う地球温暖化防止に関する環境学習について、講師を派遣し、出前環境教室を開催した。

本年度上半期の派遣・対応状況は以下のとおりである。

表 派遣・対応状況一覧

No	日程	依頼元	実施場所	内容	参加者数
1	4月1日(金) 13:00-15:00	流山市美田自治会	美田自治会館	節電をテーマにした学習会が取材され、NHK 日曜夜7時の全国ニュースにて放送された。	60名
2	5月11日(水) 10:00-11:30	平川市立平賀西中学校	全国ネット事務所	修学旅行の班別学習の対応を行った。	6名
3	5月19日(木) 10:00-11:30	天童市立第三中学校	全国ネット事務所	修学旅行の班別学習の対応を行った。	6名
4	6月4日(土) 10:00-12:00	千代田マンション交流会	千代田区麴町区民館	節電をテーマにした学習会において、新規開発ツールの実践も行った。	20名
5	6月20日(月)16:10-17:40	國學院大學	國學院大學・大教室	経済学部履修科目「環境経済の基礎」において、ゲスト講師として節電手法やうちエコ診断を紹介した。	200名
6	6月29日(水) 9:00-11:00	(財)日本国際協力センター	ルノアール貸会議室プラザ八重洲北口	JICAの研修の一環として、メコン5カ国の環境・気候変動に携わる行政官に対して、節電・地球温暖化をテーマとした体験学習、講義を行った。	25名
7	7月2日(土) 10:00-12:00	開成町立文命中学校PTA成人教育委員会	神奈川県開成町民センター	節電と地球温暖化をテーマとした体験学習を行った。	30名
8	9月1日(木) 9:30-12:00	緑色ソウル市民委員会	情報オアシス神田	日本視察の一環として、韓国の大学教授、行政職員、NPO職員などからなる委員会に対して、地球温暖化・節電をテーマとした講義、教材の紹介を行った。	10名
9	9月8日(木) 15:00-17:00	(社)海外環境協力センター	JICA 東京センター	JICAの研修の一環として、東南アジア・大洋州地域各国の環境・気候変動に携わる行政官に対して、地球温暖化・節電をテーマとした講義・体験学習を行った。	10名
10	12月6日(火) 14:30-18:00	エステイローダー株式会社	アヴェダサービス(株)	同社員を対象に、環境問題について学ぶ講座「コネクト アヴェダ」に講師派遣を行った。	24名

(5) ミニセミナー、イベントの開催

関係団体等と連携・協力し、温暖化対策に伴う様々なテーマを設定し、市民、NPO、企業等を対象にしたミニセミナーの開催、イベント等への参加を通じて効果ある温暖化防止への普及・啓発に努めた。

主なイベント等については以下のとおりである。

① 2011 地球温暖化防止展への出展

日時：平成 23 年 5 月 24 日(火)～27 日(金)10:00～17:00(27 日のみ 16:00 まで)

場所：東京ビッグサイト東ホール（東京都江東区有明 3-11-1）

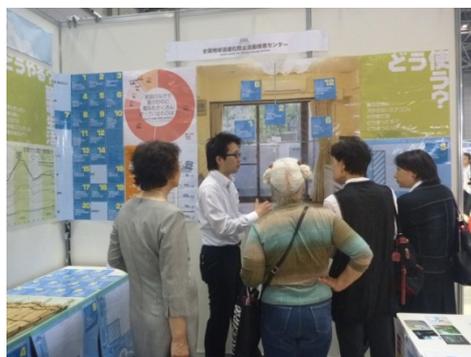
主催：株式会社日報アイ・ビー

ブース来場者：約 2500 人

セミナー参加者：約 50 名（25 日）、約 30 名（26 日）

内容：地球温暖化防止展／NEW 環境展において、出展及びセミナーを行った。来場者数約 16 万人（詳細別紙）でありながら、エンドユーザーではなく企業の環境担当者などの割合が多かったことから、全国ネットとしても事業や法人自体の周知にとって、非常に有意義なイベントであり、出展ブースにおいて、用意したパンフレットはほぼすべて配布した。

特に「どうする？どうやる？節電せいかつ」への来場者の関心は非常に高く、好評であった。



② 英国視察報告会「国境を越えたネットワークを通して～低炭素社会に向け、わたしたちにできる事～」の開催

日時：平成 23 年 6 月 19 日(日) 15:00～17:30

会場：情報オアシス 神田セミナーハウス（東京都千代田区神田多町 2-4）

主催：地球温暖化防止全国ネット

参加者：約 100 名

内容：「低炭素杯 2011」の環境大臣賞受賞 4 団体が、2011 年 5 月 30 日～6 月 4 日

にかけて、ブリティッシュ・カウンシル主催により、イギリスの環境団体を訪問し、交流を行った。報告会では、イギリスにおける低炭素社会へ取り組みについての講演、訪問概要報告、パネルディスカッションが行われた。低炭素杯2011を一過性にするのではなく、成果を継続的にしていくものとして有意義な報告会であった。



③ CC等々カエコ暮らしこフェアへの出展

日時：平成23年9月24日(土)15:00-18:30

会場：等々カ緑地内等々カ陸上競技場周辺（神奈川県川崎市中原区等々カ1）

主催：CC等々カ（カーボンチャレンジ等々カ）

…川崎市（環境局、中原区、地球温暖化防止活動推進センター）、川崎フロンターレ、富士通川崎工場、市公園緑地協会の4者で構成されている。

来場者：約200名

※うち約20名が川崎市コンソーシアム関係者

内容：川崎フロンターレより、ブース出展の要請を受けて行ったものであった。全国ネットとしては、来場者に「節電_電節エネ=節CO₂」をアピールするとともに、支援ツール等の試行の場として活用することが出来た。また、フェアに出展した川崎市センターやコンソーシアム関係者にツールの実践・紹介も行い、コンソーシアム事業支援としました。



(6) 温暖化防止にかかる環境教育資材の開発と提供

より効果的な温暖化防止活動を提案するために、ターゲットを絞った上で、ターゲット特有の問題に焦点を当てたにかかる環境教育資材のモデルを検討し、波及効果のある教育資材を開発した。

本年度は、大学生をターゲットに「効果の見える」CO₂ 排出削減に寄与する温暖化対策学習モデル事業（平成 23 年度地球環境基金助成事業）を課題の抽出から、手法の検討・学習プログラムの作成までを行った。成果は今後の温暖化防止環境教育活動に資する目的で市民、関係団体に提供した。

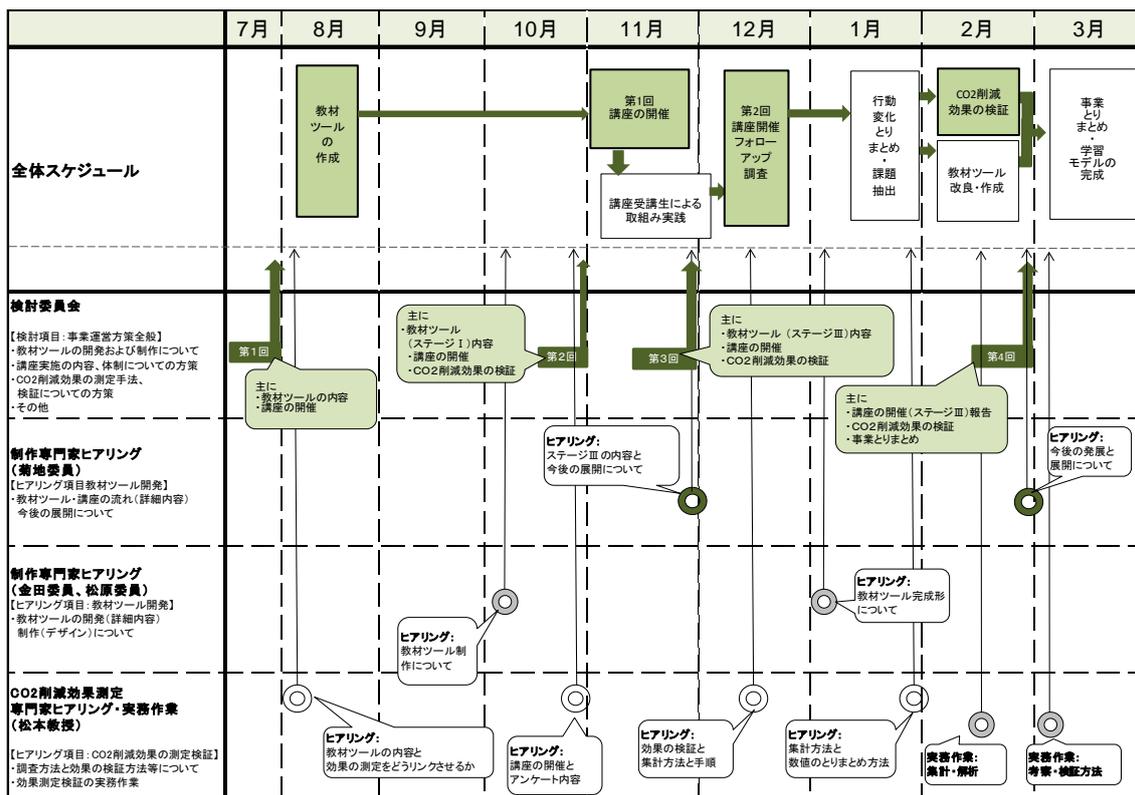
① 概要

市民が自発的に考えて行動に移すことができる参加型の教材ツールを開発し、その CO₂ 削減効果を定量的に把握する手法の構築が早期に必要であると考え。これらの一連の環境学習の枠組みを取りまとめ、全国展開に向けたモデルを構築する。

なお、対象者においては、民生家庭部門の CO₂ 削減のための取組み単位において、家族を伴う世帯よりも環境教育効果が顕著に表れ、本人のみの意思決定によって実施が可能なモデルとして、一人世帯を対象とする。今年度はその中でも今回はモデルを大学生に絞り、講座の実施と効果検証を行う。同時に、一人世帯に対して実施することが有効であるという検証も行う。

② 実施のスケジュール

- 1) 教材ツールの作成 【10月】
- 2) 講座の開催（1回目） 【11月】
- 3) 講座受講生による取組み実践 【11～12月】
- 4) 講座の開催（2回目）・フォローアップ調査 【12月】
- 5) 行動変化とりまとめ・課題抽出 【1月】
- 6) CO₂ 削減効果の検証 【2月】
- 7) 教材ツールの改良と完成 【2月】
- 8) 全体とりまとめ・学習モデルの完成 【3月】



③ 検討委員会の設置と構成

本事業における、教材ツールの開発および作成、講座の開催および効果検証については、下記の委員を中心として専門家などを交えた検討委員会を設置した。

検討委員会での意見をもとに、適宜、専門家ヒアリングを通して本事業の実施方法や内容についてアドバイス、意見を交換を行い、特に、CO2削減効果の検証について神奈川大学人間科学部の松本安生教授にアドバイスを頂いた。

【検討委員会委員一覧】

氏名 (敬称略)	所属	専門
高田 研	都留文科大学 社会学科 環境・コミュニティ創造専攻 教授	環境教育
菊地 格夫	NGO RASICA (ラシカ) 代表	大学生に対する環境教育
福島 宏希	全国青年環境連盟 (エコ・リーグ) 事務局長	大学生の環境意識、 生活実態
金田 裕子	有限会社イリュージョンミル代表	教材プログラム企画制作
松原 雅裕	デジタルイウムプロジェクト 主宰	教材プログラムデザイン
森 高一	株式会社アーバンコミュニケーションズ 環境コミュニケーショングループ	教材プログラム企画

【制作専門家ヒアリング】

氏名 (敬称略)	所属	専門
金田 裕子	有限会社イリュージョンミル代表	教材プログラム企画制作
松原 雅裕	デジタルiumプロジェクト 主宰	教材プログラムデザイン

【効果測定専門家ヒアリング】

氏名 (敬称略)	所属	専門
松本 安生	神奈川大学 人間科学部 教授	CO2 削減効果検証

④ 教材ツール「未来をつくろう！～社会とわたし～」の作成

現在の CO2 削減に関する日常行動や価値観などを共有する教材ツール「イイネすごろく」を使ってディスカッションを進める教材ツール及び、低炭素社会に向けて個人と社会の側面から考えるワークシートに基づいたグループワークを中心とする教材を新規に開発した。

教材ツールは、複数のステージ（段階）を順に追って進むことによって、地球温暖化防止に向けた学習・実践をひとつひとつ着実にこなしていく新しいタイプの教材「Step by Step ツール」として作成し、より具体的に確実に CO2 削減行動へと結びつける形を考えた。



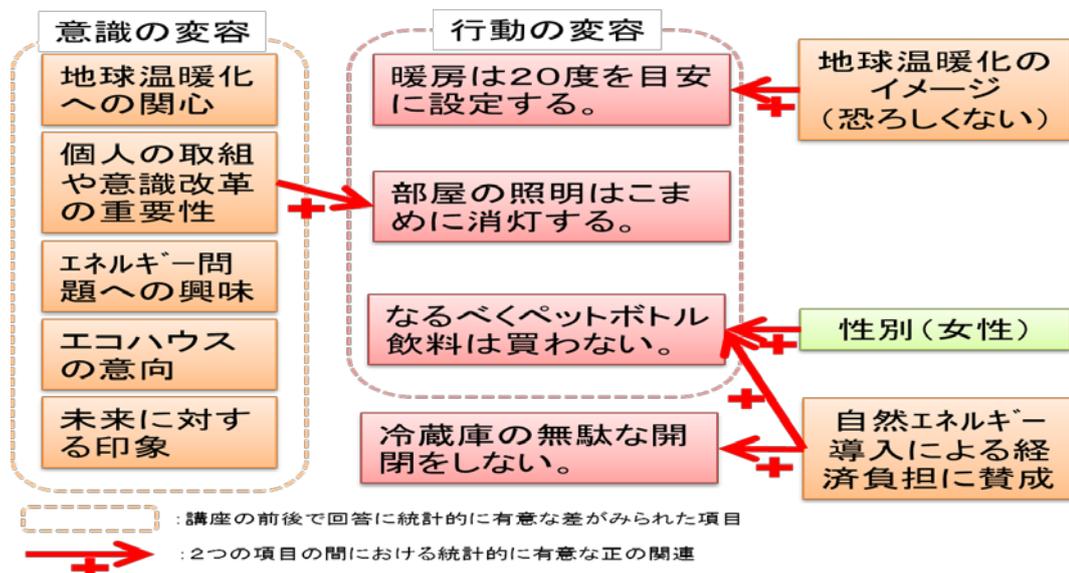
⑤ 講座の開催

上記で作成したツールの効果検証を主な目的として、100名×2回の連続講座（のべ200名）の受講生を対象に講座を実施した。ステージⅠは大学での講座を実施し、ステージⅡで家での実践をしたうえでステージⅢで再び大学でのフォローアップ講座を実施するという形で開催した。実施した学校と教材実施スケジュール及び参加者人数は以下のとおりである。

学校名	対象者	参加人数と実施スケジュール		
		ステージⅠ (第1回講座)	ステージⅢ (第2回講座)	全ステージ 参加者
慶應義塾大学	環境情報学部、総合政策学部 太田研究会所属 1～4年生 (太田志津子教授ゼミ協力)	22名 実施:11/11(金) 11:10-12:40	19名 実施:12/2(金) 11:10-12:40	14名
都留文科大学	社会学科 環境・コミュニティ 創造専攻 2年生中心 (高田研教授協力 「講座:環境教育概論」)	25名 実施:11/17(木) 9:10-10:40	18名 実施:12/8(木) 9:10-10:40	13名
早稲田大学	環境サークル「ロドリゲス」 大学2年生中心 (福島委員ご紹介)	16名 実施:11/18(金) 18:15-19:45	15名 実施:12/19(月) 18:15-19:45	10名
神奈川大学	人間科学部専攻 2年生 (松本安生教授ゼミ協力)	14名 実施:11/22(火) 13:00-14:30	15名 実施:12/13(火) 13:00-14:30	13名
神奈川大学	人間科学部専攻 2年生 (松本安生教授協力 「地域社会貢献論」)	27名 実施:11/25(金) 10:30-12:00	26名 実施:12/16(金) 10:30-12:00	21名
合計		104名	93名	71名

⑥ 効果の測定分析

本調査では、教材ツール 「Step By Step ツール 未来をつくろう！～社会とわたし～」を通じた学習（講座）において、参加した大学生を対象にアンケートを用いた調査を行い、本ツールが参加者にもたらす意識変化と行動変化の効果の検証を行った。



(7) 温暖化防止月間行事の実施

温室効果ガスの効果的な排出抑制と削減の取り組みの推進を目的に、“低炭素社会の構築(仮称)”をテーマとして展示会、フォーラムなど温暖化防止月間行事を実施した。

① エコプロダクツ 2011 [第13回] への参加

日時：平成23年12月15日(木)～17日(土)10:00～18:00(17日のみ17:00まで)

場所：東京ビッグサイト東2ホール

内容：平成24年度のうちエコ診断事業における企業の申込増加に向けた広報を主目的に、平成23年度事業における一般家庭の申込増加に向けた広報も副目的として、出展を行った。ブースを①うちエコ診断プレゼンテーションコーナー、②うちエコ診断体験コーナー、③うちエコ診断事業紹介パネル・展示コーナーの3つのコーナーに分けて、スーパーバイザーによる診断を常時行った。



写真1 体験コーナーでの診断



写真2 体験コーナー以外での診断

当日ブース対応実績

日(曜日)	診断体験参加者(組)	エコプロダクツ来場者数(人)
15(木)	39	60,231
16(金)	35	69,444
17(土)	34	51,812
合計	108	181,487

② 節エネ展示

日時：夏季(7月～8月中) 冬期(12月～1月中)

場所：地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)

内容：節電だけではなく、節エネ・節CO₂につながり、家庭での一工夫を考えていく展示コーナーを開設した。



▲夏季：展示様子

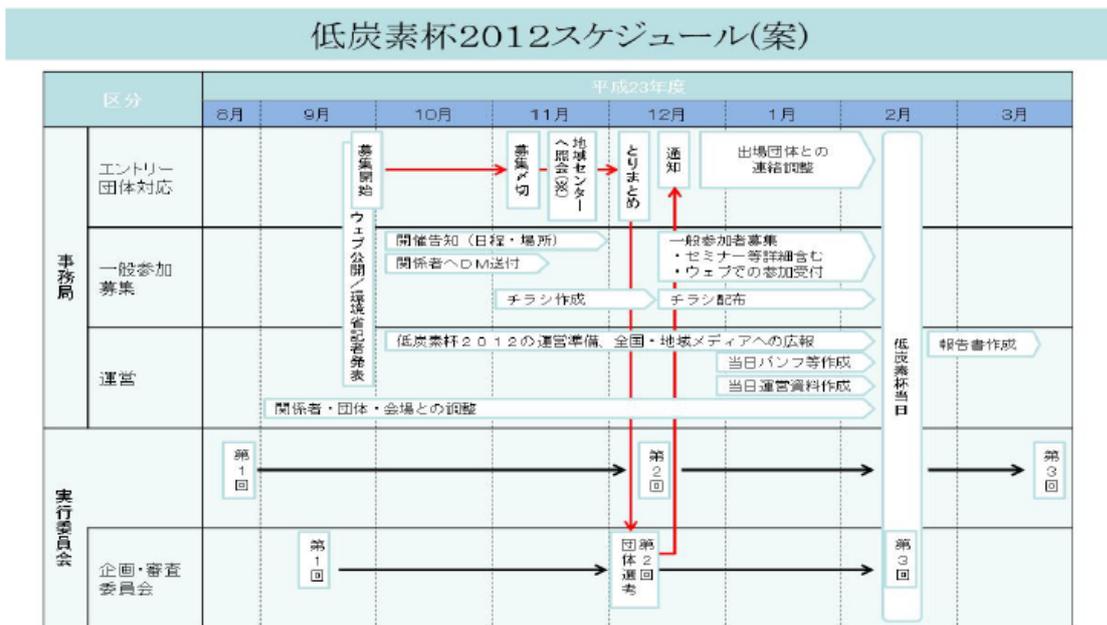


▲冬季：展示様子

(8) 低炭素杯2012の開催

次世代に向けた低炭素社会の構築のため、学校・家庭・NPO・企業などの多様な主体が、全国各地で展開している地球温暖化防止に関する地域活動を報告し、学びあい、連携の輪を広げる“場”を提供することを目的に「低炭素杯2012」を出場団体、一般参加者等、延べ1,500名が参集して、平成24年2月18日、19日に東京ビッグサイト国際会議場で開催した。

次図のスケジュールで開催を進めた。



※照会方法としては、エントリーのあった団体が活動する地域の地域センターに意見を求め、事務局に提出してもらう事を想定している。

①開催の構成

- 1) 主催：低炭素杯2012実行委員会（委員長：小宮山 宏）
- 2) 共催：株式会社LIXIL
一般財団法人セブーンイレブン記念財団
日本マクドナルド株式会社
一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
- 3) 後援：環境省
- 4) 特別協力：ブリティッシュ・カウンシル
- 5) 協賛：株式会社オルタナ
特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク、
木原木材店（北はりま小径木加工センター）
- 6) 事務局：低炭素杯2012実行委員会 事務局
（一般社団法人地球温暖化防止全国ネット）

②実行委員会

委員長 小宮山 宏 三菱総合研究所 理事長 / 東京大学 総長顧問

- 副委員長 川北 秀人 IHHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表
 副委員長 金谷 年展 慶應義塾大学大学院 政策メディア研究科 教授
 委員 石橋 和之 株式会社 LIXIL 宣伝プロモーション部 部長
 委員 伊藤 順朗 一般財団法人セブン-イレブン記念財団 評議員
 (株式会社セブン&アイ・ホールディングス 取締役執行役員 CSR 統轄部長)
- 委員 ジェフ・ストリーター ブリティッシュ・カウンシル 駐日代表
 委員 室石 泰弘 環境省地球環境局地球温暖化対策課 課長
 委員 長谷川 公一 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長

③企画・審査委員会

- 委員長 金谷 年展 慶應義塾大学大学院 政策メディア研究科 教授
 委員 小野 弘人 一般財団法人セブン-イレブン記念財団
 委員 ヒュー・オリファント ブリティッシュ・カウンシル 環境部長
 委員 岩谷 忠幸 NPO 法人気象キャスターネットワーク 事務局長
 委員 森 撰 株式会社オルタナ 編集長
 委員 菌田 綾子 株式会社クレーン 代表取締役
 委員 須藤 美智子 一般社団法人環境パートナーシップ会議 事務局長
 委員 松本 安生 神奈川大学人間科学部 教授
 委員 服部 乃利子 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット運営委員会 副委員長

④開催日程と会場

- 1) 日程：平成24年 2月18日(土)、19日(日)
 2) 開催会場：東京ビッグサイト会議室棟 国際会議場他(東京都江東区有明 3-11-1)
 3) プログラム構成

時間	2月18日(土)	2月19日(日)
10:00	準備作業	企画 審査 委員会
11:00		
12:00		
13:00	開会	特別シンポ 「低炭素地域づくり」
14:00	エントリー団体の プレゼンテーションと審査	審査結果発表と表彰
15:00		閉会
16:00		撤収作業
17:00		
18:00		
19:00	団体間交流会	

⑤プログラムの内容

- 1) 開会式及び出場団体によるプレゼンテーション（企画・審査委員による審査）
- ・日時：平成24年2月18日(土) 13時～18時
 - ・内容：エントリー団体（108団体）から事務局審査、企画・審査委員会を経て選定された全国41団体がプレゼンテーションを行った。



○低炭素杯2012出場団体（ファイナリスト） 発表順一覧

※地：地域活動部門、学：学生活動部門、企：企業活動部門、ソ：ソーシャルビジネス部門

出場 順番	部門	活動主体の名称	取り組みの名称
1	地	いわてバイオディーゼルネットワーク	東日本大震災におけるBDF燃料による被災地緊急支援
2	地	NPO法人あきた菜の花ネットワーク	菜の花で秋田を元気にしよう！（菜の花から始まる循環型社会）
3	学	三重大学環境ISO学生委員会	三重大学環境ISO学生委員会による環境活動
4	ソ	株式会社ピコエイダ	ECOIS 先進的省エネネットワーク、解析、サポートシステム
5	企	ビレッジ美合館	エコ温泉のチャレンジ ～まんのう町をエコの町へ～
6	地	Shizuoka環境キャラバン隊	環境戦士イーグルマンと歌って踊ろうミニステージ
7	ソ	有限会社 仲田種苗園	シードバンクを活用した地球温暖化防止と生物多様性の復元
8	企	北海道コカ・コーラボトリング株式会社	「バイオディーゼル燃料利用促進」による低炭素社会モデルの創出
9	地	新潟県環境保全ネットワーク	グリーンカーテンプロジェクト2011 in にいがた
10	企	中越バルブ工業株式会社 川内工場	竹から生まれた紙物語 ～地域資源で築く環境未来～
11	地	宗教法人 長泉寺	宗教活動から低炭素社会の構築を目指す
12	企	株式会社大林組 名古屋支店	低炭素社会に貢献する「環境配慮型社員寮」づくり
13	地	NPO法人 日本の森バイオマスネットワーク	木質バイオマス燃料の普及を軸にした復興支援活動
14	学	工学院大学附属中学・高等学校自動車部	ガソリン1Lで日本1周できる自動車の製作
15	学	(千葉工業大学) CIT ものづくりプロジェクト	学内未利用資源の発掘プロジェクト
16	企	ENEX株式会社	地下水熱を利用した低炭素型ヒートポンプエアコン
17	地	社会福祉法人 喜育園立山東保育園	「エコはえ～こ(良い子)を育て、地域を育てる」
18	学	栃木農業高等学校 地域おこしプロジェクト班	守れヨシの湿原、とりもどせ農村のヨシズ作り
19	地	西山森林整備推進協議会	森を守り森を育てる～現代版里山維持システムの構築に向けて～
20	地	那須温泉地球温暖化対策地域協議会	温泉余熱排湯熱及びバイオマス燃料の利用による石油代替エネルギー
21	地	バスマップ沖縄	バスを使ってエコに貢献 バスマップの配布によるバス利用の促進
22	ソ	株式会社大地を守る会	ゆかいな野菜物語
23	学	越谷市立大袋東小学校	自然・人・物との関わりを生かした環境教育と実践活動
24	学	神奈川県立相原高等学校畜産部	新たな環境保全・循環型農業の模索～地域に根ざしたリサイクルループの構築を目指して～
25	企	アイフルホームカンパニー	日本全国・地域まるごとCO2ゼロエミッションプロジェクト
26	企	株式会社エスパルス	エスパルス エコチャレンジ
27	企	さくらや・いずはら集配専門クリーニング	「やあね、こけちゃっカー」によるCO2排出軽減及び車体緑化
28	学	一橋大学環境サークル環兵衛	大学構内へのエコなシステムの導入、運営及び送り出し
29	企	株式会社 建築工房 零	社は「地球と暮らそう」をテーマとした健やかで持続可能な未来
30	地	かわさき市民共同おひさまプロジェクト	かわさき市民共同おひさまプロジェクト
31	学	山形県立米沢工業高等学校	米エゼロエミッションプロジェクト
32	地	那須野ヶ原土地改良区連合	ストップ、ザCO2 1000年のプロジェクトみんなの会
33	学	香川大学直島地域活性化プロジェクト	環境にぐうな取り組み、続けています～学生によるエコカフェ経営
34	地	特定非営利活動法人 アサザ基金	牛久市周辺におけるBDF製造を具体化の第1歩とする循環型社会(低炭素社会)構築への実物大の社会モデル提示プロジェクト
35	ソ	おひさま進歩エネルギー株式会社	市民出資によるエネルギーの地産地消
36	企	株式会社 セタ	苔、及び苔シートによる緑化から繋がる地域活性化事業
37	学	阿南工業高等専門学校	小水力発電でものづくり力強化と地域連携を図る研究会活動
38	企	マテックス株式会社	既存住宅の窓の断熱リフォームによる「CO2の削減」
39	地	社団法人東京都トラック協会	グリーン・エコプロジェクト推進活動事業
40	ソ	有限会社ナベ企画	小径間伐材の有効利用
41	地	NPO法人 そらべあ基金	太陽光で園児及び地域社会と循環型社会構築—そして被災地支援へ

2) NPO 活動支援連携事業特別シンポジウム

- ・日時：平成 24 年 2 月 19 日(日) 13:00-15:00
- ・場所：東京ビッグサイト会議室棟 国際会議室
- ・参集範囲：各コンソーシアムの幹事団体（地域センター）及び参加団体、一般参加者（計約 700 名）
- ・テーマ：ひと・まち・くらし・低炭素地域づくり
- ・趣旨：東日本大震災の発生により、東北地方を中心に未曾有の被害が生じるとともに原子力発電所の大規模な事故・停止により、我が国のエネルギー政策のあり方について抜本的な見直しが迫られている。
そのため我が国の将来に向け、まちづくり、ライフスタイル、エネルギーの需給のあり方を構想していくにあたって、低炭素社会の構築に向けて地域の様々な主体が連携をしていく事が必要不可欠である。
このシンポジウムでは、低炭素社会の構築に向けた地域連携のあり方について各界からパネリストに迎えて、討論し、提言を行う。

・プログラム

- 基調講演：英国における地域の取り組み—Big Green Challenge について
Kirsten Bound 氏 英国 NESTA[National Endowment for Science, Technology and the Arts]
Lead Policy Advisor（政策アドバイザー）

○パネルディスカッション

コーディネーター：川北 秀人氏

IIHOE【人と組織と地球のための国際研究所】代表

パネリスト

Kirsten Bound 氏 英国 NESTA Lead Policy Advisor

宮原美智子氏 NPO 法人くまもと温暖化対策センター理事長

三浦 一博氏 株式会社オプトロム代表取締役社長

布施 孝尚氏 宮城県登米市長

山田 興一氏 JST 低炭素社会戦略センター副センター長



3) 審査結果と表彰

2月19日午前10時より第3回企画・審査委員会を開催し、2月18日に行われた41団体によるプレゼンテーションを各委員が審査した結果をもとに、各賞受賞者を決定した。当初予定していた賞に加え、審査員特別賞を新たに加え表彰した。

表 表彰結果一覧

区分	賞名	団体名	活動名	地域
環境大臣賞	グランプリ	栃木農業高等学校 地域おこしプロジェクト班	守れヨシの湿原、とりもどせ農村のヨシズ作り	栃木県
	金賞(地域活動部門)	NPO 法人あきた菜の花ネットワーク	菜の花で秋田を元気にしよう！(菜の花から始まる循環型社会)	秋田県
	金賞(学生活動部門)	神奈川県立相原高等学校 畜産部	新たな環境保全・循環型農業の模索～地域に根ざしたリサイクルループの構築を目指して～	神奈川県
	金賞(企業活動部門)	アイフルホームカンパニー	日本全国・地域まるごとCO2ゼロエミッションプロジェクト	東京都
	金賞(ソーシャルビジネス部門)	有限会社 仲田種苗園	シードバンクを活用した地球温暖化防止と生物多様性の復元	福島県
特別賞	東日本大震災被災地域貢献活動賞	いわてバイオディーゼルネットワーク	東日本大震災におけるBDF燃料による被災地緊急支援	岩手県
		NPO 法人 日本の森バイオマスネットワーク	木質バイオマス燃料の普及を軸にした復興支援活動	宮城県
		NPO 法人 そらべあ基金	太陽光で園児及び地域社会と循環型社会構築—そして被災地支援へ	東京都
	節電対策貢献活動賞	ENEX 株式会社	地下水熱を利用した低炭素型ヒートポンプエアコン	秋田県
協賛・協力企業賞	最優秀グローバル賞	那須温泉地球温暖化対策地域協議会	温泉余熱排湯熱及びバイオマス燃料の利用による石油代替エネルギー	栃木県
	最優秀家庭エコ活動賞	マテックス株式会社	既存住宅の窓の断熱リフォームによる「CO2の削減」	東京都
	最優秀地域活性化賞	香川大学直島地域活性化プロジェクト	環境にぐうな取り組み、続けていませ～学生によるエコカフェ経営	香川県
	最優秀コミュニケーション賞	宗教法人 長泉寺	宗教活動から低炭素社会の構築を目指す	宮城県
		株式会社大林組 名古屋支店	低炭素社会に貢献する「環境配慮型社員寮」づくり	愛知県
	最優秀地域エコ活動賞	株式会社ピコエイダ	E C O I S 先進的省エネネットワーク、解析、サポートシステム	東京都
		越谷市立大袋東小学校	自然・人・物との関わりを生かした環境教育と実践活動	埼玉県
社会福祉法人 喜育園立山東保育園	「エコはえ～こ(良い子)を育て、地域を育てる」	熊本県		
審査員特別賞	最優秀プレゼンテーション賞	中越パルプ工業株式会社 川内工場	竹から生まれた紙物語 ～地域資源で築く環境未来～	鹿児島県
	最優秀地域連携賞	特定非営利活動法人 アサザ基金	牛久市周辺におけるBDF製造を具体化の第1歩とする循環型社会(低炭素社会)構築への実物大の社会モデル提示プロジェクト	茨城県
	最優秀イノベーション賞	おひさま進歩エネルギー株式会社	市民出資によるエネルギーの地産地消	長野県
		社団法人東京都トラック協会	グリーン・エコプロジェクト推進活動事業	東京都
ユニークプレゼンテーション賞	株式会社 セタ	苔、及び苔シートによる緑化から繋がる地域活性化事業	新潟県	

※環境大臣賞は、横光克彦環境副大臣より表彰状が、低炭素杯2012トロフィーは制作に携わった東日本大震災の被災地である宮城県石巻市立湊小学校6年生の代表より贈られた。

⑥低炭素杯トロフィー制作と写真展について

低炭素杯2012において環境大臣賞受賞団体へ授与される「低炭素杯（トロフィー）」は、造形家の齊藤公太郎氏が、石巻市のがれきを使って東日本大震災で被害を受けた石巻市立湊小学校の子供達と協働で制作した。又、この時、子供達自身も東日本大震災などを乗り越えて卒業を迎える自分自身への記念トロフィーを制作した。

低炭素杯2012会場ロビーにおいて、子供達との制作の様子をパネル展示する写真展を開催した。



⑦団体間交流会の開催

2月18日夜、かねてより要望の多かった出場団体及び共催等団体の意見交換・交流を図るため、会場と近接する香港飲茶楼ル・パーク（東京ビッグサイト東展示ホール）で団体間交流会を開催した。約200名が参加した。



⑧報告書の作成

低炭素杯2012開催の記録を残し、低炭素杯2013につなげるために、報告書を700部作成し、エントリー団体、地域センター等関係者に配布した。



低炭素杯2012報告書

⑨HPの整理・統合

低炭素杯2012開催に関するこれまでの情報を集約し、整理統合したWEBサイトとして立ち上げた。

低炭素杯 2012

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット
低炭素杯2011のサイトはこちら

募集 受賞結果!

低炭素杯2012では、全国各地の学校・家庭・NPO・企業などの皆さんが活動のプレゼンテーションを通して、学び合い、連携の環を広げることができました。低炭素杯2012へのご支援、ご参加ありがとうございました。

日時：2012年2月18日(土)・19日(日)
会場：東京ビッグサイト(国際会議場)

低炭素杯2012

低炭素杯2013 開催予定 日時：2013年2月16日(土)・17日(日)
会場：東京ビッグサイト(国際会議場)
※内容が決定次第随時お知らせします。ご期待ください!

主催：低炭素杯2012実行委員会

5. 業務運営基盤の整備

- (1) 業務に執行にあたっては、近い将来の公益社団法人化を念頭におきつつその効率的、効果的な運営に努めることとする。
- (2) 当法人の活動について不断の PR、情報発信につとめ、メディアとの情報交換及びネットワーク構築を図るものとする。
- (3) 会員、準会員、賛助会員の入会を積極的に勧めるとともに、自主財源の多様な確保に努め、当法人の業務運営基盤の整備に資するものとした。
平成24年3月末現在の会員数は次表のとおり。

表 会員数一覧（平成24年3月末現在）

正会員		48
準会員		3
賛助会員	団体	7
	個人	14